

官報

號外

大正十二年三月二日

金曜日

印刷局

第四十六回 衆議院議事速記録第二十二號

大正十二年三月一日(木曜日)午後一時十四分開議

議事日程 第二十一號 大正十二年三月一日

午後一時開議

第一 議員山道襄一君懲罰事犯ノ件

第二 衆議院議員選舉法中改正法律案(安達謙藏君外十一名提出) 第一讀會(前會ノ續)

第三 土地收用法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第五 工場法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第六 工業労働者最低年齡法案(政府提出) 第一讀會

第七 右各案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第八 療兵院法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第九 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十 醫師法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第十一 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十二 船員ノ最低年齡及健康證明書ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第十三 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十四 陪審法案(政府提出) 第一讀會

第十五 恩給法案(政府提出) 第一讀會

第十六 種牡馬検査法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第十七 岩北軌道株式會社所屬軌道經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(粕谷義三君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

(原田書記官朗讀)

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

船員ノ最低年齡及健康證明書ニ關スル法律案 (以上二月二十七日提出)

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

恩給法案ノ委員長報告ニ對スル修正案

提出者 高木 正年君 近藤 達兒君 (以上三月一日提出)

發明獎勵ニ關スル建議案

提出者 島田 俊雄君 田中 隆三君

下岡 忠治君 鈴木富士彌君

大口 喜六君 清瀬 一郎君

秋田 悦造君 中島 鵬六君

鈴木 錠藏君 (以上二月二十七日提出)

旭川改修工事ニ關スル建議案

提出者 高草美代藏君 土居 通憲君

中國鐵道買收ニ關スル建議案

提出者 高草美代藏君 土居 通憲君

一 議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ

日米條約改訂ニ關スル質問主意書

提出者 清瀬規矩雄君

國定教科書改訂ニ關スル質問主意書

提出者 田中 萬逸君 (以上二月二十八日提出)

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

一去二十七日内閣總理大臣ヨリ左ノ通發令アリタル

旨ノ通牒ヲ受領セリ

農商務省所管事務政府委員被仰付

一昨二十八日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如シ

農商務書記官 吉野 信次

第三部選出懲罰委員 森田 茂君(石井研二君

補關)

第四部選出懲罰委員 横山金太郎君(本間三郎君

補關)

第四部選出懲罰委員 鈴木富士彌君(小野重行君

補關)

第八部選出懲罰委員 野村 嘉六君(野呂丈太郎

君補關)

一 今一日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如シ

第二部選出懲罰委員 永屋 茂君(飯島信明君

補關)

○議長(粕谷義三君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、御諮リ致

ス事ガアリマス、第五部選出決算委員、村田虎之助君カラ

常任委員辭任ノ申出ガアリマス、許可スルニ御異議ハア

リマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可

致シマス、其部ノ諸君ハ速ニ補關選舉ヲ行ヒ、届出アラシ

トヲ希望致シマス、尙ホ御諮リ致ス事ガアリマス、玉置良直

君病氣ニ付、二月二十八日ヨリ三月十五日マデ、指田義

雄君病氣ニ付、三月一日ヨリ三月十日マデ、大矢馬太郎

君病氣ニ付、三月二日ヨリ三月十五日マデ、右何レモ請暇

ノ申出ガアリマス、許可スルニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可

致シマス——是ヨリ日程第一、議員山道襄一君懲罰事犯

ノ件ヲ議題ト致シマス

第一 議員山道襄一君懲罰事犯ノ件(委員長報告)

報告書

一 議員山道襄一君懲罰事犯ノ件(高見之通君提出)

右ハ本院ニ於テ議院法第九十六條第一項第三號及衆

議院規則第二百六條同第二百三條ニ依リ十四日間ノ出席停止ヲ命スヘキモノト議決致候此段及報告候也
大正十二年二月二十八日
懲罰委員長 岩崎幸治郎

衆議院議長粕谷義三君

○議長(粕谷義三君) 懲罰事犯ノ議事ハ秘密會デアリマスカラ、傍聴人ノ退場ヲ命ジマス
〔午後一時十八分秘密會ニ入ル〕

〔午後三時八分秘密會ヲ終ル〕

○議長(粕谷義三君) 是ヨリ會議ヲ公開致シマス、傍聴人ヲ入場セシメマス、山道襄一君ノ入場ヲ許シマス——秘密會ノ結果ヲ御報告致シマス、秘密會ニ於テハ山道襄一君懲罰事犯ノ件ヲ議決致シマス、仍テ其議決ニ基キ宣告ヲ致シマス、議員山道襄一君ニ對シ議院法第九十六條第一項第三號、及衆議院規則第二百六條、同ジク第二百三條ニ據リ十四日間ノ出席停止ヲ命ズ、右ノ通りデアリマス
〔拍手起リ「橫暴」ト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 此際議事進行ニ付テ發言ヲ求メラレテ居リマス、佐々木安五郎君
〔「登壇」「登壇」ト呼フ者アリ〕

〔佐々木安五郎君 私ハ書記官長カラノ御注文ニ依リテ本席ヨリ申上ゲマス、今回ノ議場騷擾ノ原因ハ兩黨相闘グト云フヤウナ形ガアリマシタ、吾々革新派カラ見レバ頗ル遺憾ニ存ジマス、併ナガラ既ニ懲罰問題トナツタ以上ハ、處分サレノハ當リ前デアリマセウガ、山道襄一君ノ言論中ニ、議長ガ言論ノ中止ヲ命ズル、而シテ其言論中ニ懲罰問題ヲ提起シテ、其爲ニ議員ノ發言權、既ニ得タル既得權——既得權ヲ蹂躪スルト云フコトハ、從來ノ慣例ヲ調ベテモ當テ一回モ此例ノ無イコトデアリマス、斯ノ如キ惡例ヲ造ルト云フコトニナレバ、多數黨ガ將來如何ナル場合ニ於テモ、議員ノ言論中ニ懲罰問題ヲ提起シテ、其議員ノ言論ヲ中止セシメ、而シテ之ヲ懲罰ニ落ス、其後ノ議論ヲ阻止スルコトノ出來ル譯デスガ、是デハ立憲政體、言論ノ自由ト云フモノハ何所デ保障サレカ分ラヌ、ソレデアリマスカラ私ハ此際ニ於テダ、議長ハ言論中止ヲ命ジタ——中止デアリマセヌ其時ハ言論禁止ト言ハレタ、禁止ナニカニ付スル權能ハ議長ニアリマセヌ、後カラ改メラレテ中止ト言ハレタケレドモ、中止スル權能モアリマセヌ、前ノ與議長ハ彼レダケ橫暴デアラケレドモ、皆ノ議論ヲ濟マシテ一應ノ議論ガ濟シタ後

ニ、此事件ニ付テハ斯ウ云ウ懲罰事犯ガ起タト云フコトヲ言ウクノデス、其一應 議論ノ濟マヌ中ニ其議論ヲ中斷ヲシテ、サウシテ懲罰問題ヲ一議員カラ起シタカラト云ウテ、貴重ナル議員ノ言論ヲ中止セシメ、阻止セシムルト云フコトハ、此國會ガ創マデ以來前例ノ無イ事デアリマス(「アル」ト呼フ者アリ)斯様ナ事ガ屢、行ハレタナラバ、議員ノ言論ナルモノハ多數黨カラ何時デモ蹂躪サレト云フコトヲ惧レルノデアル、故ニ吾々ハ議會ガ全會一致ヲ以テ推薦シタル粕谷議長ノ自己ノ良心ニ訴ヘラレテ、其宣告ヲ暫ク待テ貰フテ、山道襄一君ニ一時間デモ五十分デモ三十分デモ宜イカラ議論ヲサシテ、然ル後ニ宣告ヲスルノガ當リ前デアル(「無用」「無用」ト呼フ者アリ)サモナケレバ議長ト政友會ガ密通ヲシテ議員ノ言論ヲ阻止スルト云フコトハ誠ニ遺憾デアル(拍手)故ニ山道襄一君ノ登壇ヲ許シテ、其言論ノ終ヲ所デ、此宣告ヲ與ヘラレンコトヲ希望スル次第デアリマス、サモナケレバ後來ニ惡例ヲ貽ス、何時迄モ多數黨ダト思フデ居テモ駄目デアリマス、其次ニハ少數黨ニナル立場ニナル、少數黨ニナル立場ニナツテカラ後悔ヲスルナ、今宜シク正々黨々ト議論ヲサセルガ宜シイ、吾々ガ粕谷議長ヲ推薦シタ理由ハ、粕谷議長ハ公明正大ナル人格者デアルト云フコトヲ信ジテ援ケタノデアル、吾々ハ粕谷議長ノ人格ヲ尊重スル爲ニ、粕谷議長ハ宜シク山道襄一君ニ登壇セシムルコトヲ許シテカラ、其後ニ宣告ヲ命ゼラレンコトヲ希望スル
○議長(粕谷義三君) 是ヨリ日經第二、衆議院議員選舉法中改正法律案ノ第一讀會ノ前會ノ續ヲ開キマス

第二 衆議院議員選舉法中改正法律案(安達謙藏君外十一名提出)

第一讀會(前會ノ續)

○議長(粕谷義三君) 此場合前會ノ繼續ト致シマシテ山道襄一君ニ發言ヲ許スベキデアリマス、併ナガラ山道君ハ只今諸君ノ御決議ニナリマシタヤウナ次第デ、出席停止ニナリマシタ以上ハ、自然ノ結果トシテ山道君ノ發言ハ失ハレタモノト認メマス、此場合加藤内閣總理大臣カラ辯明ヲ求メラレテ居リマス

〔國務大臣男爵加藤友三郎君登壇〕

○國務大臣(男爵加藤友三郎君) 只今議題トナツテ居リマス選舉法中改正法律案ニ付キマシテ一言申述ベタイト存ジマス、申上ゲルマデモナク、時勢ノ進運ニ伴ヒマシテ、又

文化ノ發達ニ順應致シマスルガ如キ選舉法ヲ改正致シ、就中其選舉權ノ擴張ヲ致シマスルト云フコトハ當然ノ事ト存ズルノデアリマス、故ニ政府ニ於キマシテハ、是等ノ問題ニ付キマシテ目下慎重研究中デアリマス、併ナガラ今直ニ之ヲ實行致シマスト云フコトニハ、遺憾ナガラ政府ハ御同意致シ兼ネルノデアリマス、仍テ本案ハ速ニ御否決アラシコトヲ希望致シマス

○岩崎勳君 本案ニ對スル賛否ノ討論ハ實ニ三日ニ亙リテ之ヲ繼續致シタノデアリマス、茲ニ提案側ノ意圖ヲ斟酌致シマシテ討論終結ノ動議ヲ提出致シマス
〔贊成「贊成」ノ聲起ル〕

○議長(粕谷義三君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ……
〔異議アリ「ト呼フ者アリ」〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ガアリマスレバ起立ニ依リテ採決致シマス、岩崎君ノ動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス
〔贊成者 起立〕

○議長(粕谷義三君) 起立多數、討論ハ終局サレマシタ、小泉又次郎君外一名ヨリ此選舉法中改正法律案ヲ議長指名二十七名ノ委員ニ付託シタイト云フ動議ガ出テ居リマス、之ガ説明ヲ許シマス、小泉又次郎君
〔小泉又次郎君登壇〕

○小泉又次郎君 私ハ本案ヲ議長指名二十七名ノ委員ニ付託スベシトノ動議ヲ提出シ、併セテ其理由ヲ簡單ニ説明致シタイト思ヒマス、本案ハ申スマデモナク憲法附屬ノ大典デアリマシテ、最も重要ナル案件デアリマスルガ故ニ、數日間ニ亙リマシテ賛成反對交々議論ヲ闘ハセタノデアリマスケレドモ、未ダ以テ慎重ニ審議ヲ盡シ得タトハ申上ゲラレヌノデアリマス(拍手「ノウ」)反對者諸君ノ御演說ヲ承リマスレバ、政友會員中ニ於テ有名ナル大學者デアラレル所ノ戸水寛人君ハ何ト申サレテ居リマスル、普通選舉ハ理想デアアル、主義トシテハ贊成デアルト言ハレテ居ル、其口ノ下ヨリ普通選舉ト社會主義トハ兄弟デアルト言ハレタニ至リマシテハ、聽ク者殆ド呆然タラザルヲ得ヌノデアリマス(拍手)而モソレヲ眞面目ニ治メテシテ御議論ニ相成リマシタル、其大膽ニハ驚クベク、其矛盾ハ憚マザルヲ得ナイト思フノデアリマス(拍手)又宮古君ノ御演說中、十四年前、即チ第十七議會ニ於テ普通選舉ガ本院ヲ通過シタル當時ニ付テ一

書サレテ居リマス、其當時多數ノ政友會員ノ諸君ニ於カレマシテハ熱心ニ賛成ヲセラレテ居ル、併ナガラ其賛成ヲサレタル人々ハ個人トシテ賛成シタルノデアル、自由問題トシテ賛成シタルノデアル、決シテソレハ政友會ノ黨議ナシ、黨議ナキガ故ニ政友會ハ其賛成ヲシタル責任無シト言ハレテ居ルノデアル、或ハサウデアリマセウ、然ラバ私ハ茲ニ御尋ヲ致シタイノデアリマス、其當時御賛成ヲサレ——最モ熱心ニ御賛成ヲサレタ所ノ川原茂輔、吉植庄一郎、松田源治、福井三郎、是等ノ諸君ハ、今果シテ御健在ナルヤ否ヤト云フコトヲ問ハネバナラヌ(拍手)否寧ロ良心ヲ有セラル、カヲ疑ハザルヲ得ヌノデアリマス(拍手)又吉良君ノ御演説中ニハ、本條ヲ改正スルナラバ何ガ故ニ別表ノ改正ヲセヌカト、最モ意義アル御演説モアツタヤウニ并聴致シテ居リマス、牧野君ノ御演説ヲ承リマスレバ、其論旨ハ殆ド賛成論デアリマシテ、本案ニ賛成ヲサレタ裏書ヲシタト同様デアルト思フノデアリマス(拍手)龍野君ノ御演説ハ如何ニモ堂々タル立派ナル御議論デアツタヤウニ并聴致シマスルガ、内容ハ餘リ本案ニ觸レテ居リマセヌ、願ミテ他ヲ言フガ如キ觀ノアツタコトハ、洵ニ遺憾千萬デアアルノデアリマス(拍手)唯、其内容ヲシキ點ハ何ト申サレテ居ルカト言ヘバ、本案ハ重大問題デアアル、十分調査研究スルト言ハレテ居リマス、其御言葉ガ内容ニ觸レタト言ヘバソレガ觸レテ居ルと思フノデアリマス、福井三郎君ハ此問題ハ國家ノ存亡ニ關スル大問題デアアルト、冒頭ニハ大キナル風呂敷ヲ擴ゲテ御掛リニナタノデアリマスルカラ、定メテ名論卓説ヲ伺フノ光榮ニ浴スルカト思ヒマシテ、吾々ハ私カニソレヲ期待シテ居タノデアリマス、然ルニ何ゾ國ラン、其御演説ヲ承リマスレバ、其内容空虚ニシテ議論散漫、聽クニ堪ヘザルト云フコトハ、洵ニ遺憾千萬デアアルノデアリマス(拍手)此反對者諸君ノ結論ヲ并聴致シマスルノニ、理想トシテハ賛成デアアル、主義トシテハ賛成デアアル、併ナガラ本案ヲ行フ時ニハ、我が政友會ガ現在ノ人心ノ動搖ヲ善導シ、社會ノ惡化ヲ改良シ、面目ヲ新ニシタ上ニ於テ、政友會ガ之ヲ實行スルト御明言ナサレテ居ルノデアリマス、諸君人心ノ動搖ヲ來シタト云フコトハ、果シテ誰ガ人心ノ動搖ヲ來シタノデアルカ、社會ヲ惡化セシメタ、果シテ誰人ガ社會ヲ惡化セシメタノデアリマスカ(拍手)唯、徒ニ之ヲ絶叫スルコトハ其末ヲ知テ其本ヲ知ラザル憫ムベキ御議論デアルト謂ハナケレバナラヌノデアリマス(拍手)又諸君ハ本案ハ輿論ニ非ズト御論定ニナサレテ居リマスルケ

レドモ、諸君ガ御記憶ノ通り大正九年不當ナル解散ノ當時ニ於キマシテハ、諸君ハ何ト仰セラレタ、普通選舉ハ國家ノ基礎ヲ危クスルモノデアアル、彼ノ獨逸ヲ見ヨ、彼ノ露西亞ヲ見ヨト言フデ、數千萬枚ノ宣傳「ボスター」ヲ全國ニ撒布致シマシテ、醉外ナル國民ヲ欺瞞ラシテ、以テ其當時ノ總選舉ニ利用ナサレタ結果ハ、二百八十名ト云フ頭數ノ故ヲ以テ、確ニ證明出來ルデアリマセヌカ、之ヲ要スルニ本案ニ對スル提案者、並ニ賛成者ノ御議論ニ對スル反對黨ノ御議論ハ、何レモ條理整ハズ論旨不徹底ニシテ、徒ニ一部ノ階級ニ媚ラントシテ反對センガ爲ニ反對セラレタト云フコトハ、寧アベカラザル事實デアアルノデアリマス、只今總理大臣ノ御演説ヲ承リマスレバ、今ヤ政府ハ調査機關ヲ設ケテ調査中デアルト仰セラレテ居リマス、諸君、立憲政治ニ基礎ノ伴ハザル所謂超然內閣、變體內閣、貴族內閣ト言ハレテ居リマス、現內閣ニ於テスラ、民意ノ嚮フ所ヲ察シテ今ヤ調査機關ヲ設ケテ調査ヲシテ居ルト云フコトデアアルニモ拘ラズ、民意ヲ代表スベキ所ノ此衆議院ニ於テ、諸君ガ多數ヲ恃ンデ此重大案件ヲ即決否決スルト云フガ如キニ至リマシテハ、自ラ議會ノ權能ヲ無視シ、自己ノ責任ヲ解セザルノ甚シキモノデアリマス(拍手)六千萬ノ同胞ヲ侮辱スルモノデアルト言ハレテモ、何ノ辯解ノ辭ガアリマスカ、(拍手)莫クハ諸君、特ニ政友會ノ諸君ハ良心ノ命ズル所ニ從ヒ、速ニ本案ニ賛成セラレンコトヲ希望スルノデアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 賛成ノ通告ガアリマス——佐々木安五郎君一寸御待下サイ……

○佐々木安五郎君 ドウシテ待ツノデス

○議長(粕谷義三君) 前二質疑ノ通告ガアリマシタ——春日俊文君

(春日俊文君登壇)

○春日俊文君 只今私ノ常ニ敬愛ヲシテ居ル小泉又次郎君ヨリ、本案ヲ第二議會ニ移スノ御動議ガアリマシタ(問違ヘルナ委員會會場ヨリ呼フ者アリ)委員會デス、問違ヒト氣違ヒハ幾ラモアル事デス、答メ給フナ——之ニ對シテ私ハ御尋申上ゲタイ事ガアリマス、此案ニ對スル討論ノ大體ヲ見マズレバ、政友會ノ吉良元夫君並ニ福井三郎君ノ御兩君ハ、黨ヲ代表シタモノデナイト云フ御前提ノ下ニ反對セラレタ外ニハ、一人モ絕對ニ反對ヲスルト云フ御方ハ無イノデアリマス、即チ此案ハ納稅資格ノ撤廢ノ點ニ於テ議論ハナイケレドモ、時期ノ點、ソレカラシテ法案ノ不備ノ點、ソレカラ意

政會ガ此案ニ對スル態度ノ點此三點ニ於テ反對ヲサレテ居ルノミデアアル、納稅資格ノ撤廢ハ、大體ニ於テハ何人モ反對ヲシテハ居ラヌノデアリマス、先ヅ私ガ御尋シタイノハ、只今個人トシテ私ガ尊敬シテ居ル小泉君ノ提案デアアルガ、憲政會トシテ果シテ委員會ニ付託スル御意思ガアルカドウカ、是ガ第一ニ承リタイ(アルカラ出シタノデハナイカ)ト呼フ者アリ)默テ御聽ナサイ——之ニ就テ私ノ質問ノ理由ト箇條ヲ申上ゲマス、簡單ニ申上ゲマス、即チ此案ハ私ノ見ル所ニ依レバ、納稅資格ノ撤廢ニハ賛成デアアルガ、杜撰極マル案デアアル、恐ラク是經ノ杜撰ナル案ハ他ニ類例ガ無イノデアリマス、第一(指摘シ給ヘト呼フ者アリ)御待ナサイアナタ方ニ言ハレヌデモ、ソレ程ノ事ハ是カラ申シマスカラ御待ナサイ——先ヅ杜撰ノ點カラ申上ゲマス、之ヲ委員會ニ移シテ、サウシテ、慎重審議互議妥協シテ修正シタラ宜イデヤナイカト言フガ、ソレガ出來ヌイ理由ヲ最後ニ申上ゲマス、杜撰ノ第一ハ、此案ノ提出者モ普通選舉(質問デヤナイデヤナイカ)ト呼フ者アリ、質問デアリマス——普通選舉ナドト稱ヘテ居リ、世間モ亦普通選舉ナドト(議論ト質問ト違フ)何ヲ言フデ居ルノダト呼フ者アリ)何ヲ言フデ居ルカ分ラヌ、程頭ノ惡イ人ハ家ヘ歸レ、ソレガ宜シ——理由カラ言フデ然ル後ニ首ヒマス——普通選舉ナドト稱ヘラル、ニモ拘ラズ、年齡ノ點ニ於テ——默リ給ヘ、懸ダト長クナルデゲ——婦人ヲ全然除外シテ居ルト云フコトハ普通選舉ノ名ニ背キモノデアアル、斯ク申サバ諸君ハ、今日政治的能力ニ關スル最モ重大ナル治安警察法スラム、即チ集會結社ノ自由ヲ婦人ニ對シテ認メラレテヨリ僅ニ一年デアアル、此間ニ於テ未ダ婦人ノ政治能力ガ發達シテ居ラヌカラ除外スルト仰シヤルノデアリマセウガ、今日ノ自覺セル婦人ニハ、尙ホ男子ヨリ政治能力ノ勝レタ者ガ澤山アル筈デアアル、然ルニ此婦人ニ對シテスラム參政權ヲ與ヘナイト云フコトハ、果シテ普通選舉ノ名ニ副ゲテ居ルカ、是ガ第一點デアリマス、第二點ハ、現在ノ選舉區制ハ即チ三國ノ納稅資格ノ制限ヲセラレタル、選舉民ニ應應スル爲ニ作ラレタル選舉制度デアアル、然ルニ此選舉制度ニ對シテ何等ノ考慮ヲ拂ハレテ居ラヌ、勿論是ハ家ノ上カラ言フノデアリマス、既ニ憲政會ニ於テハ、此案ニ付テモ十分御研究ニナサレテ居ルト承知シテ居ル、即チ中選舉區制ヲ採ラントスルノ議ガ總テ居ルトハ承知シテ居リマスガ、未ダ此案ノ上ニハ現レテ居ラナイ、選舉區制ニ付テ何等ノ考慮ヲ拂テ居ラヌ、是ガ不備ノ第二點デアリマス、第三點ハ現ニ此法案ニ對シ、憲

政會デ一番眞面目ノ御演説ト拜聴シ得ラレル、横山金太郎君ノ御演説ニ就テ遺憾ナク暴露シテ居ル、即チ此案ヲ成法トシテ以テ、普選ヲ要望スル國民ニ満足ヲ與ヘルト云フ御考ガ諸君ニハ少シモ無イノダ、唯、普選案ヲ提案シテ御演説サヘ爲サレバ、又一般ノ地方ノ騷グ人ヲ満足サセレバ宜イト云フコトニシカ見受ケラレナイ、先ツ提案者ノ降旗君ガ提案ノ理由ヲ説明スルニ當テ、一言半句モ案ノ内容ヲ説明シテ居ラス、一言モ案ノ説明ヲシテ居ラス、唯、政友會ヲ攻撃シタニ止マテ居ル(議長々々)質問ノ要旨ヲ言(ト呼フ者アリ)質問ノ趣意ハ是カラ分リマス、君等ニハ分ラヌカモ知レマセヌガ、終リニハ分ルノダ、先ヅ斯ウ云フコトヲ言テ居リマス、(此時發言スル者多シ)今ニ分ルカラ暫ク聴キ給ヘ、其言葉ノ奥底ニハ確ニ、貴族院及ビ樞密院ノ權威ニ萎縮シテ、早クモ既ニ妥協符合ノ氣分ガ漂ウテ居ルト云フコトヲ看取スルニ難クナイノデアリマス、本員ト雖モ、貴族院樞密院ノアルコトハ知テ居リマス、本員ハ斯様ニ考ヘルノデアル、吾々ハ飽マデモ自主的ノ權能ニ依テ、案ヲ合理的ニ扱ヘバ宜シイノデアル、敢テ兩院ノ鼻息ヲ窺フト云フガ如キ卑屈無定見ナル態度ヲ學ブノ要ハ無イノデアル、ト斯様ニ放言ヲシテ居ラレル、是デハアナタ方ガ普選案ヲ成法トシテ、サウシテ兩院ヲ通過サセルトカ、樞密院ノ同意ヲ得テ以テ國民ノ満足ヲ望ムニ副フト云フヤウナ御考ガ、少シモ無イト云フコトガ分テ居ルデアリマセヌカ、御騷ギニナレバ宜イト云フダケデアル、更ニ第四ノ點ニ付テ申上ゲテ見マセウ

〔議長々々春日君ニ注意ヲ願ヒマス〕「ソレガ質問カ」ト呼フ者アリ
○議長(粕谷義三君) 春日君、質疑ノ要點ヲ仰シヤッテ下サイ
○春日俊文君(續) 是ガ質疑デアリマス、第四ノ點ハ、諸君ガ所謂納稅資格ノ撤廢ヲ叫バレルノハ、即チ參政權ノ民衆化デアル、而モ今日ハ參政權ノ民衆化ヨリ、未ダ國民ニ最モ重大ノ關係ヲ持テ居ル、此間田淵君カラモ御演説ガ「資本ノ民衆化、産業ノ民衆化、殊ニ況ヤ吾々ニ重大ノ關係アル司法ノ民衆化、即チ陪審法ガアルノニモ拘ラズ、之ニ對シテハ諸君ハ一向黨議ヲ總メテ居ラナイ、而モ反對スル人達ハ黨ノ最高幹部ノ諸君デアアル、唯、陣笠ダケガ所謂自由討議トシテ御贊成ヲ爲サルト云フ狀態デアアル、是デ果シテ諸君ガ此案ヲ眞面目ニ御扱ニナル考ガアルノカ、是ハアルトハ申サレマス、是カラガ私ノ質問デアリマス、即チ本當ニ此案ヲ通過サセヤウト云フコトデアラナラバ、先以テ憲政會ガ手ヲ御引ニナッテ、革新俱樂部及無所屬ノ諸君ニ御委セニナルガ宜シイ、先ヅ私カラ申シテ見ナレバナラヌコトハ、諸君ト雖モ多士濟々デアアル、殊ニ此普選案ガ國民ノ高調ヲ呈シタ時ハ何時デアラカト云ヘバ、大正九年ト大正十年、分リ切テ居ル、此時ニハ諸君ハ何トシテ居ラレタ、即チ樞密院並ニ貴族院ノ態度ニ考慮サレテ、サウシテ所謂「獨立ノ生計ヲ立ツル者」ト云フ文句ヲ加ヘテ居ッタデアアル、其高調ニ達シテ居タ時ハ、此眞面目ノ案ヲ維持シテ居ラレタ、私ハ敢テ眞面目ノ案デアルト云フ、其當時ハ眞面目ノ案デアッタ、之ヲ維持シテ以テ、サウシテ國民黨並ニ無所屬ノ諸君ト歩調ヲ一ニスルコトヲシナイデ居テ、愈國民ガソロソロ熱ガ冷マケテ來タ時ニ、諸君ハ此大切ノ點ヲ放テ、國民黨ノ案ニ一致ヲサレタデアリマセヌカ、是ハ一體諸君ガ討議ヲ爲サル意思ガ何所ニアルカ、諸君ト雖モ此位ノ事ハ知テ居ル筈ダ、知テ故ヲ爲サレテ居ルノデハナイカ、私ハ重ねテ諸君ニ御注意ヲ致シマスガ、酒ト肴ニ饗バレタ人ノ外ハ、憲政會ノ諸君ノ爲ニ火中ノ栗ヲ拾フノ愚ハ爲サナイノデアアル、是ハ普選ニ熱心ナル吾々カラハ迷惑千萬デアアルノデアリマス、アナタ方手ヲ御引キナサレ、アナタ方ノ爲ニ火中ノ栗ヲ拾フノ愚ヲ爲ス者ハ、酒ト肴ニ饗バレタ者ヨリ外一人モ無イノデアアル、革新俱樂部ノ諸君及無所屬ノ諸君ガ諸君ト手ヲ携ヘタノハ、決シテ諸君ト共ニ此案ヲ通サウト云フヤウナ考デアナイ

〔何ヲ言テ居ル〕議長注意シナイカト呼フ者アリ
○議長(粕谷義三君) 春日君、質疑ノ要旨ヲ御述ヲ願ヒマス
○春日俊文君(續) 憲政會ノ案ガ如何ニモ不眞面目デアアル、之ヲ果シテ委員付託ニスル勸議ヲ出スコトハ嘘ダラウト思フ、先ヅ憲政會ノ諸君モ此位ノ事ハ能ク御承知デアリマセウケレドモ、餘リ長クナルト議長カラモ色々御注意ガアリマスカラ例ヲ引イテ申シマスガ、今日憲政會ガ萎靡トシテ振ハナイ所以ノモノハ、總裁ニ加藤子爵ヲ戴イテ居ルカラデアアル、之ヲ除ケバ憲政會ハ振フト同ジ理窟デ、本當ニ普選案ヲ通過サセヤウト云フコトナラバ、諸君ガ手ヲ御引キナサイ、諸君ガ手ヲ引ケバ此普選案ハ必ズ通ル、デ私ノ質問ノ要領ハ斯ウ云フ事デアリマス、本當ニ眞面目ニ委員付託ニシヤウト云フ御考デアルカ、又ハ世間ヲ欺イテ、サウシテ私共マデモ

一緒ニ仲間ニ引張り込マウト云フ御考デアルカ、之ヲ御尋スル、ドウゾ明確ニ御答ヲ願ヒタイ
〔無用々々〕答ヘル必要ナシト呼フ者アリ
〔小泉又次郎君登壇〕

○小泉又次郎君 春日君ノ御質問ニ答辯ヲ致シタイノデアリマスガ、議場騷然ノ結果モアリマシタラウ、又私不敏ニシテ春日君ノ御演説ヲ頭ニ入レルノ能力ガ無カッタカモ知レマセヌガ、如何ニモ其要旨ヲ捉ヘルニ苦ムノデアリマス、唯、一言私ノ耳ニ入リマシタノハ、眞面目ニヤッテ居ルノカ、居ナイカ、眞面目ニ委員付託ニスル氣分ガ有ルカ無イカト云フコトデアアル、ソレハ御質問御無用デアル(ヒヤ)先程春日君ガ議事ノ進行ニ付テ議長ニ御注意ニナッタコトハ、マダ御記憶デアラセラレマセウ、近頃議會ガ不眞面目ニナッテ、議事ノ進行ニ名ヲ藉リテ自己ノ意見ヲ言フ、或ハ様々ナ論議ヲスルト云フコトハ、寔ニ議會政治ノ爲ニ惜ムト御嘆ジニナッタ春日君ガ、自ラ其言責ヲ忘レテ、而モ我黨ニ惡罵ヲ加フルニ至リマシタル政友會ノ諸君ガ、之ニ御答出度ク御手ヲ御叩キニナルト云フコトハ、私ハ尙更御答出度イ諸君デアルト思フノデアアル(拍手)私ハ特ニ茲ニ御答ヲシナケレバナラヌコトハ、春日君ハ(ソレガ答辯カ)ト呼フ者アリ、答辯デアリマス、春日君ハ何カ民衆ノ運動トカ、輿論トカ仰セラレテ居リマスルケレドモ、諸君ガ大正九年ニハ國家ノ基礎ヲ危クスルト言ヒナガラ、未ダ三年ヲ出ザル今日普選選舉ハ理想デアアル、主義トシテ賛成デアルト仰セラル、ニ至リマシタノハ畢竟何デアルカ、此普選選舉ハ合理ノ要求デアアル、時代ノ要求デアルト云フ天下ノ公論、民衆ノ輿論ニ、諸君ガ其處マデ引摺ラレテ居、タト云フコトハ明カナ證據デアリマセヌカ(拍手)之ヲ私ハ一言ヲ申上ゲマシタナラバ、諸君ハ驕然トシテ悟ル所ガアルデアリマセウ、直ニ私ハ本案ヲ委員ニ付託致シマシテ、慎重ニ審議致シマシテ、春日君ノ望マル、通り、春日君ガ當テ我黨ニ御在ニナッタ時分ニハ、吾々トハ固イ握手ヲセラレテ、普選ノ爲ニハ努力スルト御誓ヒニナッタコトヲ、ヨモヤ御忘レハナイト思フノデアアル(拍手)其吾々ト手ヲ握ッタ時ノコトヲ御忘レナクンバ、吾々ガ如何ニ之ヲ眞面目デヤッテ居ルカ居ラスカト云フコトハ、私ガ説明スル必要ハナイト思フ、是ガ私ノ御答デアアルノデアリマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 佐々木安五郎君

○佐々木安五郎君 諸君私ハ委員會ニ付託スベシト云フ

○春日俊文君(續) 是ガ質疑デアリマス、第四ノ點ハ、諸君ガ所謂納稅資格ノ撤廢ヲ叫バレルノハ、即チ參政權ノ民衆化デアル、而モ今日ハ參政權ノ民衆化ヨリ、未ダ國民ニ最モ重大ノ關係ヲ持テ居ル、此間田淵君カラモ御演説ガ「資本ノ民衆化、産業ノ民衆化、殊ニ況ヤ吾々ニ重大ノ關係アル司法ノ民衆化、即チ陪審法ガアルノニモ拘ラズ、之ニ對シテハ諸君ハ一向黨議ヲ總メテ居ラナイ、而モ反對スル人達ハ黨ノ最高幹部ノ諸君デアアル、唯、陣笠ダケガ所謂自由討議トシテ御贊成ヲ爲サルト云フ狀態デアアル、是デ果シテ諸君ガ此案ヲ眞面目ニ御扱ニナル考ガアルノカ、是ハアルトハ申サレマス、是カラガ私ノ質問デアリマス、即チ本當ニ此案ヲ通過サセヤウト云フコトデアラナラバ、先以テ憲政會ガ手ヲ御引ニナッテ、革新俱樂部及無所屬ノ諸君ニ御委セニナルガ宜シイ、先ヅ私カラ申シテ見ナレバナラヌコトハ、諸君ト雖モ多士濟々デアアル、殊ニ此普選案ガ國民ノ高調ヲ呈シタ時ハ何時デアラカト云ヘバ、大正九年ト大正十年、分リ切テ居ル、此時ニハ諸君ハ何トシテ居ラレタ、即チ樞密院並ニ貴族院ノ態度ニ考慮サレテ、サウシテ所謂「獨立ノ生計ヲ立ツル者」ト云フ文句ヲ加ヘテ居ッタデアアル、其高調ニ達シテ居タ時ハ、此眞面目ノ案ヲ維持シテ居ラレタ、私ハ敢テ眞面目ノ案デアルト云フ、其當時ハ眞面目ノ案デアッタ、之ヲ維持シテ以テ、サウシテ國民黨並ニ無所屬ノ諸君ト歩調ヲ一ニスルコトヲシナイデ居テ、愈國民ガソロソロ熱ガ冷マケテ來タ時ニ、諸君ハ此大切ノ點ヲ放テ、國民黨ノ案ニ一致ヲサレタデアリマセヌカ、是ハ一體諸君ガ討議ヲ爲サル意思ガ何所ニアルカ、諸君ト雖モ此位ノ事ハ知テ居ル筈ダ、知テ故ヲ爲サレテ居ルノデハナイカ、私ハ重ねテ諸君ニ御注意ヲ致シマスガ、酒ト肴ニ饗バレタ人ノ外ハ、憲政會ノ諸君ノ爲ニ火中ノ栗ヲ拾フノ愚ハ爲サナイノデアアル、是ハ普選ニ熱心ナル吾々カラハ迷惑千萬デアアルノデアリマス、アナタ方手ヲ御引キナサレ、アナタ方ノ爲ニ火中ノ栗ヲ拾フノ愚ヲ爲ス者ハ、酒ト肴ニ饗バレタ者ヨリ外一人モ無イノデアアル、革新俱樂部ノ諸君及無所屬ノ諸君ガ諸君ト手ヲ携ヘタノハ、決シテ諸君ト共ニ此案ヲ通サウト云フヤウナ考デアナイ

○佐々木安五郎君 諸君私ハ委員會ニ付託スベシト云フ

議論ニ賛成デス、最前私ガ此演壇ニ立ッテハ議長ノ許可ナクシテ立ッテ演説ハアリマセヌ、議長ガ賛成論トシテ佐々木安五郎君ト呼ンダカラ立ッテ演説ス、而シテ此演壇ニ立ッテリ引込メト云フコトヲ言フ、ハ議長ガ手落ナンデス、此手落ト云フコトガ分ラズニ議長ニ失態ヲ重ネシムベク、私ヲ無理ニ演壇カラ退ケタト云フ政友會ハ、大失態ヲ重ネル上塗リデアルト云フコトヲ言フ、デ置ク(拍手)「馬鹿言ヘ」(醉拂ヒ)ト呼フ者アリ、元來粕谷議長ハ人格温厚ニシテ素質甚ダ良シ(笑聲)デアルカラ、吾々ハ全會一致ヲ以テ議長ニ推薦シタ譯ダ、然ルニ一昨日ノ手際ヲ見ルト、ドウモ政友會カラ使ハレテ居ルラシイ、是ハ甚ダ惡イ、議事中ニ於テ言論ノ禁止ヲ命ズル(又ヤルノカソレヲ)ト呼フ者アリ、甚ダ惡イ(「諄イヨ」ト呼フ者アリ)諄イヨ言フガ前達諄イヨ事ヲスルカラ俺達モ諄クシナケレバナラヌ、諄イヨ事ヲシナケレバアザリ濟マシテヤルケレドモ、諄クスルナラバ何遍デモ叱、デヤルノダ、ソレハ俺ノ權利ダ(問題外ダ)ト呼フ者アリ、默、デ聽イテ居レ(「醉拂ヒ」)「醉漢」ト呼フ者アリ、只今春日俊文君ガ立チマシタガ、春日君ノ聲ハ私ガ聲、高聲ニ願フト云フニ拘ラズ、一番接近シタ席デ聽イテモ何ヲ言フノカ分ラヌ(「醉」デ居テ分ルカ)ト呼フ者アリ、醉、デ居ラニヤ尙ホ分ラヌダラウ、春日俊文ト云ウテ春日ノ日ト書イテ「カスガ」ト讀ム譯サヘモ分ラヌカモ知レナイ、何故「カスガ」ト讀ムカ、議論ノ筋ヲ聽クト討論ヤラ質疑ヤラ分ラナイデヤナイカ、議會ノ議場ニ於テノ議論ハ討論ハ討論、質疑ハ質疑、質問ハ質問ト云フ體ガアル、言論ニハ體ガアル(「オ前ハ何ヲ言フデ居ルノカ」ト呼フ者アリ)「オ前達ニ分ラヌデモ俺ニハ分ラヌデ居ル、質疑ヤラ質問ヤラ討論ヤラ分ラヌ奴ガ、餘計ナコトヲ言フ」デ駄目デアル(拍手)今春日君ノ議論ハ質疑トシテハドウシテモ受取レヌ、討論ノヤウナ形ダ、而シテ第一ニ春日君ノ根本的ノ矛盾ト云フコトハ、憲政會ニ居リテ普選論ノ賛成者デアル、一万余千人ノ青年ノ請願書ニ署名シタル一員デアル(「ヒヤ」(拍手)「加之憲政會ニ於ケル普選提案者ノ一人トシテ署名シテ居ル、ソレガ今日政友會ニ變テカラト云ウテ、速ニ掌ヲ反スガ如ク打ッテ返シタヤウニ、普選反對ヲ唱ヘルト云フコトハ、ドウ云フ顔色ガアルデ言ヒ得ラル、カ、吾々同志ニハ分ラヌノデアリ」(議長注意セヨ)「賛成論デハナイ」ト呼フ者アリ)議論ガアルナラ後カラ言ヘ

〔此時發言スル者多シ〕

○議長(粕谷義三君) 佐々木君——佐々木君……

〔議場騒然聽取スル能ハス〕

○佐々木安五郎君(續) 而シテ斯ノ如キ間違タル議論ヲ唱ヘル、此堂々タル賛成論者ヲ含メタル所ノ普選反對論ガ何ノ値打ガアルカ、吾々ハ今ノ總理大臣ニ向ッテ質問シタイト思フ、總理大臣ハ尙ホ調査中ナリト云フ、調査中ナラバ調査期間ト云フモノガアル、何時カラ何時マデ調査シテ其間ニ調査ヲ打切ッデ、ソレカラ實行ニ移ルト云フコトハアルガ、總理大臣ハ調査中ト云フ言葉ダケ言ウタガ、何月何日マデニ調査シテ實行スルト云フコトハ言フデ居ラヌ、是ハ「メテ」デアル(「メテ」ノ親玉デアル、是ハ政友會カラハ普通選舉ニ賛成シテヤイカヌト曉マレ、民衆カラハ普選論ニ賛成シロト責メラレ、板挟ミニナッテ已ムヲ得ズ隱レ場トシテ調査中ト云フ旨イ言葉ヲ考ヘテ居ルノデアル(拍手)若シ誠心誠意ガアルナラバ、何月何日マデニ調査スル、ソレカラ實行ニ移ルト云フコトヲ豫メ言フベキモノデアル、明治天皇陛下デモ二十三年ヲ以テ國會ヲ開設スルト云フコトハ、豫メ期間ヲ示サレテ居ル、其間ハ調査期間ダカラ盲動シテハイケナイト仰セニナッデ居ル、ソレガ天下ノ政治ヲ執ル者ノ秘訣デアル、ソレガ分ラヌデ唯、調査中、調査中、明日來テモ調査中、昨日來テモ調査中、何ノ調査カ調査ハ一ツモシテ居ラヌ、唯、胡麻化シ調査バカリヤテ居ル、斯ノ如ク調査中調査中デ、通レルヤウナ總理大臣ヲ相手ニシテ、吾々ハ最早調査中ニ甘ンズル譯ニハ行カヌ、政友會自ラ重シトスルナラバ、民衆ノ意見ニ聽イテ民衆的ノ調査ヲヤレ、伊藤公ガ何トカ言フタテ驚イテ大騒ギラヌ、伊藤公ガ何ダ、伊藤公ガ何トカ言フタ一匹位ナモノデヤナイカ、華族ノ一匹ガ政友會ノ惡口ヲ言フタトテ色ヲ眞著ニシテ騒グ必要ガアルカ、若モ六千万ガ一致シタナラバ伊藤公何カアラン、山縣公何カアランド云フコトヲ言フデ見ロソコマデ言切レルカ、伊藤公ガ何カ、反古ノ一枚ヲ見テ吃驚スルヤウナ民衆政治ガ何處ニ在ルカ(拍手)シナ弱イ事デ民衆政治ガ出來ルト思フカ、民衆政治ガ出來ルト思フナラバ、總理大臣ノ調査ヲ待タズニ議會自ラ調査セヨ、總理大臣ガ調査ニ本當ノ誠意ガアルナラバ、官僚バカリノ如クニ調査委員ヲ選ンデ調査ヲセズニ、有ユル政治家、有ユル學者、有ユル博士、有ユル實業家、有ユル農民、其中ノ優秀ナル者ヲ選ンデ調査會ヲシテ、普選ガ善イカ惡イカト云フコトヲ國論的ニ統一シテ、而シテ之ヲ決メルガ宜イ、サウ云フ事ヲセズニ、自分ノ如ク二下戸ハ下戸ダケ味方ヲシテ、酒ノ反對ヲスルガ如ク、上戸ハ上戸ダケ味方ヲシテ酒ノ賛成ヲスル

ガ如ク、自分ノ味方ヲ集メテ、官僚萬能ノ旗ヲ掲ゲタ所デ何ノ役ニ立ツカダ(拍手)之ヲ補フノニハ帝國議會ガアル、民衆ノ各方面カラ代表サレタル帝國議會ガアル、帝國議會ニ各方面カラ集タル者ガ自ラ調査會ヲ開クト云フコトガ委員會ニ於テ慎重ナル審議ヲスルノガ、是ガ總理大臣ノ調査以上ノ調査デアル、之ヲ許サヌト云フコトハ、政友會自ラ民衆ノ力足ラズトシテ、自ラ民衆ノ力ヲ蔑視シテ、吾一人善シトスル政黨本位ノ裏書ヲスルヤウナモノデアルト云フコトヲ、俺ハ斷言スルノデアル、故ニ此點ニ於テハ否デモ應デモ、政友會ハ賛成セザルベカラザルモノデアル、(賛成サレルモノカ、反對ダ)ト呼フ者アリ、賛成セヌナラバ政友會ハ國賊デアルト云フコトヲ言フノデアル(拍手)

○岩崎勳君 討論ヲ盡シタル後ニ於テ、本案ニ對スル賛否ノ判定ハ自ラ明瞭デアリマス、故ニ委員付託ノ動議ニ反對致シマス

〔賛成〕「賛成」横暴ト呼フ者アリ

○議長(粕谷義三君) 採決ヲ致シマス、本案ヲ委員ニ付託スベシト云フコトノ動議ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲ求メマス

〔賛成者 起立〕

○議長(粕谷義三君) 少數デアリマス、仍テ勸議ハ否決サレマシタ、次ニ本案ニ付テ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

〔賛成者 起立〕

○議長(粕谷義三君) 少數デアリマス、仍テ本案ハ第二讀會ヲ開カザルコトニ決定致シマシタ(拍手)此際議員高見之通君ヲ懲罰委員ニ付スルコトノ動議ガ、清瀨君外一名ヨリ提出ニナッデ居リマス、清瀨一郎君

〔清瀨一郎君登壇〕

○清瀨一郎君 諸君、本員ハ茲ニ最モ悲ムベキ動議ヲ提出致シマス(「謹聽」(拍手)「即チ議員高見之通君ヲ懲罰委員ニ付託ス」ト云フ動議デアリマス、其理由ハ議員高見之通君ハ、大正十二年二月二十七日當院本會議ニ於テ、自ラ主動者トナリ、他ノ議員ヲ使喚シ、故意ニ議院ノ騷擾ヲ惹起セシメタリ、右ハ衆議院規則第二百六條ニ該當スベキ事犯ナルヲ以テ、議院法第九十八條ニ依リ本動議ヲ提出致シマス(拍手)其理由ヲ簡單ニ説明致シマス、一昨二十七日、本會議ノ議場騷擾整理シ難シト云フ理由デ、議院法第八十八條ヲ適用シテ散會ニナッテデアリマス、此騷擾ノアツタ

コトハ事實デアリマスルガ、騷擾ハドウシテ起テカト云フコトヲ調ヒテ見マスルノニ、山道襄一君ノ演説中不穩當ナル言語アリトシテ、恰モ議員高見之通君ヨリ懲罰ノ動議ヲ提出サレ、議事ハ一時議長ノ宣言ニ依テ中止トナリタリデアリマス、此中止ガ解カレマシテ、會議ガ再開トナリマシタ際ニ、我ガ俱樂部ノ濱田國松君ヨリ議長ニ質問サレタ結果、前ニ禁止ト宣言サレタ事ハ中止デアルト云フコトニ釋明サレマシテ、茲ニ山道襄一君ハ演壇ニ登ラントサレタノデアリマス、此際間ニ政友會ノ岩崎勲君ヨリシテ、散會ノ動議ヲ提出サレタヤウデアリマス、一方山道君ハ發言ノ許可ヲ得、他方ニ於テ岩崎勲君ガ散會ノ動議ヲ提出サレマシタガ故ニ、此際議長ハ岩崎君ニ向テ「御待テ下サイ、既ニ山道君ニ發言ノ許可シテ居リマス、岩崎君ノ動議ハ暫ク御猶豫ヲ願ヒマス」ト議長ガ岩崎君ニ願フテ居ルノデアリマス、ソレデ岩崎君ノ散會ノ動議ハ採決ガ出來マセヌカラ、此際ニドウカシテ議會ヲ散會セシメタイト云フ考ガアタモト見エルノデアリマス、此際間ニ恰モ高見君ガ自席ヲ外シテ、席ヲ左右ニ歩ミ、政友會ノ代議士諸君ヲ指揮シテ、議場ノ騷擾ヲ來シタノデアリマス、此騷擾ノ結果、議長ハ已ムヲ得ズシテ議院法——特別例外ナル議院法第八十八條ヲ適用シ、此議會ヲ閉會ヲ命ジタ、斯ウ云フノデアリマス、茲ニ吾々ガ冷靜ニ考慮シナケレバナラヌ一事ガアル、從來議會ノ騷擾ト云フ事ハアタノデアリマス、ケレドモ一昨日ノ騷擾タケハ全ク意味ガ違テ居ル、山道君ノ言動ニ付テハ無論不穩當ノ事ガアタト諸君ハ主張サレケレドモ、此問題ハ既ニ懲罰ノ動議成立ニ依テ消滅シテ居ル、議長ガ岩崎君ノ發言ニ耳ヲ藉サナカッタト云フコトモ條理上當然、且亦議長ハ特ニ諸君ノ信任サレル議長デアル、此際ニ故ラニ騷擾ヲ惹起スベキ動機ハ何モ無、此騷擾ト云フモノハ實ハ騷擾自體ガ目的、騷擾ガヤリタクテ騷擾ヲシテ居ル、即チ議院法第八十八條ノ適用ガ受ケタクテ騷擾ヲ致シテ居ル、何故議院法第八十八條ノ適用ガ受ケタイカト云フト、茲ニ山道君ニ演説ヲ繼續サスコトハ不本意デアルカラ此際ニ腕力ニ訴ヘテモ議會ヲ閉會サシテ、翌日ハ懲罰委員會ヲ開キ、同君ノ出席停止ヲ求メテ、遂ニ山道君ヲシテ言フコトヲ言ヒ了ル機會ヲ得ザラシメントシテ、諸君ハ騷イダノデアリマス、此度ノ騷擾ハ從來ノ騷擾ノヤウニ發作的ノモノデハナイ、是ガ違テ居ル、人工的ニ故造作爲ノ騷擾デアルト云フコトガ、私ハ全ク違フコトト思フ、是ハ即チ議院ノ生命タル所ノ言論ノ自由ノ危機デ

アリマスガ故ニ、茲ニ此動議ヲ出スモノデアリマス、高見君ハ特ニ政友會中ノ有力ナル議員デアラレ、此議場ノ整理ト云フコトニ付テハ岩崎君ト共ニ協力サレテ居ル、此非常ナ手段ニ訴ヘテ、議會ノ閉會ヲ圖ラレタト云フコトニ付テハ、内部ニ色々ナ事情ガアリマセウ、又山道君ノ演説ノ中ニモ種々ナル言葉ガアリマス、殊ニ諸君ノ先輩アル原敬君ノ事マデニ言及サレテ居リマス、此際高見君ガ此舉ニ出デラレタト云フコトニ付テハ、人情トシテ吾々同情スル所ガナイデハナイ、是ハ寧ろ人間トシテハ諒ト致シマスルガ、奈何セン之ガ爲ニ議院ノ生命タル言論ノ自由ヲ蹂躪スルコトヲ許スベキデハ無イ(拍手)若シ私情カラ申セバ、高見君ハ私ト同ジ議院ノ同僚タルノミナラス、職業上ノ友人デアル、若シモ悲シイト云フコトナラバ、懲罰ヲ受ケラレル高見君ヨリモ、之ヲ提案スル私ノ心ノ方ガ悲シイノデアリマス、併ナガラ斷ジテ茲ニ懲罰ヲ求メルノハ、即チ吾々ノ神聖ナル權利ヲ擁護セン爲デアリマスガ故ニ、諸君モ茲ニ冷靜ニ御判斷ヲ願ヒタイ、高見君ノ言動ノ中ニハ、幾分義侠ト云フ觀念モアリマセウ、サウナレバ潔ク茲ニ懲罰ニ付サレテ、一方ニ於テハ黨ニ對スル義侠他方ニ於テハ議院ノ言論ノ尊重ヲ明カニサレルナラバ、一層高見君ノ名譽デアラウト存ジマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 直ニ採決ヲ致シマス、清瀨一郎君ノ動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

(賛成者 起立)

○議長(粕谷義三君) 少數デアリマス、仍テ動議ハ否決セラレマシタ、次ニ日程第三、土地收用法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——水野內務大臣

第三 土地收用法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

土地收用法中改正法律案

第二條第五號ヲ左ノ如ク改ム

五 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ施設スル事業

第二條ノ二 現ニ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ用ニ供スル土地ハ特別ノ事由アル場合ニ非サレハ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ス

第五條中「權利ヲ有スル者」ノ下ニ「及其ノ土地ニ存スル

建物ニ付賃借權又ハ擔保權ヲ有スル者」ヲ「土地ニ關シテ權利ヲ取得シタル者」ノ下ニ「又ハ其ノ土地ニ存スル建物ニ付賃借權又ハ擔保權ヲ取得シタル者」ヲ、同條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

起業者ニ於テ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ時ヨリ六月以上ノ期間ヲ定メ建物ノ移轉ヲ要求スル場合ニ於テ其ノ建物ニ付期間ノ定ナキ賃借權又ハ移轉スヘキ期間内ニ終了スル期間ノ定アル賃借權ヲ有スル者ハ關係人ト看做サス

第七條ノ二 本法ノ規定ハ土地ニ定著スル物件又ハ之ニ關スル權利ノ收用又ハ使用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十條第三項ヲ左ノ如ク改ム

日出前日以後ハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ郡内ニ立入ルコトヲ得ス

第十五條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ同條中「前項」ヲ「前二項」ニ改ム

宮內大臣、主務大臣又ハ地方長官前項ニ規定スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及用途ノ期間ヲ郡市長ニ通知スヘシ

第十七條中「爲シタルトキ」ノ下ニ「又ハ第十五條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキ」ヲ加ヘ「第三項」ヲ「第四項」ニ改ム

第九條ノ二 前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後土地所有者及關係人ハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ第七條ノ二ノ物件ヲ損壞若ハ收去スルコトヲ得ス

第二十條中「前條」ヲ「第十九條」ニ改ム

第二十一條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ土地所有者又ハ關係人ト共ニ土地物件ニ關スル調書ヲ作製スヘシ

前項ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ關係人カ調書ヲ作製スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ作製スルコト能ハサルトキハ起業者ハ市町村長ノ立會ヲ以テ之ヲ作製スヘシ市町村長カ起業者ナルトキ又ハ起業者ニ對シ第四十條第二項ニ掲ケタル關係ヲ有スルトキハ起業者ノ申請ニ依リ地方長官立會人ヲ指定スヘシ起業者、土地所有者及關係人ハ本條ノ規定ニ依リ作製シタル調書ノ記載事項ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第二十三條中「左に掲ケタル書類」ノ下ニ「及第二十一條ノ規定ニ依ル土地物件ニ關スル調書」ヲ加フ

第二十四條 地方長官前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ二週間内ニ之ヲ市町村長ニ送付スヘシ

市町村長前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ五日內ニ公告ヲ爲シ公告ノ日ヨリ一週間之ヲ公衆ノ縦覽ニ供スヘシ

第二十六條 地方長官ハ前條ノ期間終了シタル日ヨリ一箇月內ニ收用審査會ヲ開クヘシ但シ特別ノ事由アル場合ニ限リ二週間内ノ延期ヲ爲スコトヲ得

第三十三條中「第三項」ヲ「第二項若ハ第四項」ニ改ム

第三十八條中「府縣」ヲ「道府縣」ニ改ム

第四十條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ同條中「市參事會員町村長」ヲ「市町村長」ニ「委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキ」ヲ「道府縣名譽職參事會員タル委員ノ數減少シタルトキ」ニ「府縣」ヲ「道府縣」ニ改ム

本條ノ規定ニ依リ高等文官タル委員ノ數減少シタルトキハ地方長官ハ高等文官ニシテ其ノ本條ノ規定ニ抵觸セサル者ノ内ヨリ臨時ニ指名シテ之ヲ補充スヘシ

第四十三條中「收用又ハ使用スヘキ土地以外ノ土地所有者」ヲ「前項ニ掲ケル者以外ノ者」ニ改ム

第六十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

第二十二條ノ協議ニ因リ取得シタル土地ハ本條ノ適用ニ付テハ之ヲ收用シタル土地トス

第七十五條 第十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十六條 第九條又ハ第十一條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十七條 鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出サレタル者詐僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第七十八條中「四十圓以下ノ罰金」ヲ「百圓以下ノ過料」ニ改ム

第七十九條ヲ削ル

第八十條中「二十圓以下ノ罰金」ヲ「五十圓以下ノ過料」ニ改メ同條ヲ第七十九條トス

第八十條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第八十六條第一項及第三項ノ創制

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法中期間ノ定アル場合ニ於テ本法施行前其ノ起算期日ノ經過シタルモノニ付テハ本法施行ノ日ヲ以テ其ノ起算期日トス

本法施行前土地收用法第七十八條又ハ第八十條ノ規定ニ該當スル行爲ヲ爲シタル者ノ處罰ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

〔國務大臣水野鍊太郎君登壇〕

○國務大臣(水野鍊太郎君) 本案提出ノ理由ヲ説明致シマス、世運ノ進歩ニ伴ヒマシテ、地方公共團體ニ於テ施設經營シマスル各種公共事業増加シテ參リマシタカラシテ、是等事業ノ爲ニ要シマスル土地ハ、使用收用スルコトヲ得セシメマシテ、以テ事業ノ進捗ヲ圖ルコトヲ必要トスルノデアリマス、又收用法中ニ於キマスル諸般ノ手續ニ至リマシテハ、多年ノ實驗上不便ヲ感ジテ居ル所モアリマスカラ、是等ノ不便ヲ除キマシテ、一面ニ於テハ起業者ノ利便ヲ圖リ、一面ニ於キマシテハ被收用者ノ權利ヲ保護スルコトヲ必要トスルノデアリマス、是レ即チ現行土地收用法ヲ改正致シテ、此案ヲ提出スル所以デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ給ハラシテ希望致シマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 本案ニ對シテハ質疑ノ通告ガアリマス——高木正年君

〔高木正年君登壇〕

○高木正年君 極テ簡單ニ要領ヲ申シマシテ、政府ノ答辯ヲ承リタイト思ヒマス、大風殺到ノ後ニ靜寂ヲ破ルヤウナ觀ガアリマスガ、此事ハ極テ國民ノ權利ニ重大ナル關係ヲ有シテ居ルノデアリマス、暫ク御聽ヲ願ヒタイ、土地收用法ハ、昨年ノ議會ニ於テ政府ハ改正案ヲ提出サレタノデアリ、是ハ諸君ノ御承知ノ通りデアリマス、此改正ハ近來政府ガ提案セラレマシタ中ノ、極テ良イ法案デアルト云フコトヲ吾々ハ喜ンデ居ル、唯、奈何セン、吾々ガ金科玉條トシテ、國民ノ權利ヲ確保シ得タリト思フト同時ニ、一方ニハ此權利ヲ抹殺スルガ如キ矛盾著ノ箇條ガ、此條文中ニ羅列サレテ居ルノデアリマス、此點ガ私が時間無キ今日ノ此議場ニ、已ムナク發言セザラザ得ザル立場ニ在ルト云フコトヲ御諒解ヲ願ヒタイ、收用法ノ第五條ノ第一項ヲ修正シマシテ、嘗テ國民ノ多數ハ要求シテ居タガ政府ハ一顧ダモ與ヘザ

リシ所ノ賃借權ヲ新ニ認メタト云フコトハ、極メテ是ハ良イ事デアル、第五條ノ一項中ニ「權利ヲ有スル者」ト云フ文字ノ下ニ、賃借權及擔保權者ト云フ是ダケノ文字ガ加ヘテアル、從來收用法ノ要求スル所ノ本體ハ何ニ在ルト云フト、國民ノ自由ナルベキ其權利ハ之ヲ犧牲トスル、言葉ヲ返シテ言ヘバ其權利ハ制限スル、サリナガラ此權利ノ犧牲ニ對シテハ、出來得ル限り法律ノ保護ノ下ニ其補償ヲ盡クセシムルト云フコトハ、收用法元來ノ精神デアルノデアリマス、然ルニ土地ニ對シテノ補償、建物ニ對シテノ補償ハ爲シ得テアルケレドモ、所謂賃借權者、人ノ家屋ヲ賃借スル者ノ上ニ付テハ、既ニ借家法ノ上ニ十分ナラザルモ、相當ノ權利ノ補償ハ規定セラレタルニ拘ラズ、此收用法ニ至リテハ全ク何等顯ミル所ガ無イ、勿論現在ノ收用法ハ極テ舊イ法律デアアル、主トシテ鐵道敷設ノ必要ノ上カラ、國民ノ所有スル土地若クハ建物ニ對シテ、是ガ收用ノ規定ヲ認メラレタルニ相違ナイノデアリマス、併ナガラ未ダ人口多カラズ、土地ノ繁榮今日ノ如クナラザル當時ニ在リテハ、所謂借家人ノ如キ、偶ニ收用ニ係ルコトアルト雖モ、勿論其移轉モ極テ容易デアアル、然ルニ今日ハ家屋櫛比シテ、道路改修ノ場合ニ於テ、鐵道開通等ノ場合ニ於テ、停車場改造等ノ場合ニ於テモ、殆ド住宅ヲ追フト云フヨリハ、住居人ヲ追フト云フコトガ最も大ナル事柄ニナツテ居ルノデアリマス、然ルニソレニ對シテ一ツモ權利ノ保障ヲシテ居ラヌノデアリマス、損害ノ補償ヲシテ居ラヌノデアリマス、此度ノ改正法案ニハ、昨年ヨリ賃借權者モ加ヘルト云フコトハ民衆的ノ——言葉ヲ換ヘテ言ヘバ、無產階級ヲ保護スル極テ良イ箇條デアルト云フコトヲ賞讃スルニ憚ラヌ、サリナガラ斯ノ如キ最も良キ所ノ性質ヲ持タル所ノ改正法案モ、五條ノ第二項ニ至リテ全ク是ヲ抹殺シテ居ルノデアリ、此改正法案ノ法文ヲ讀ミマスガ、是ハ勿論記憶ノ上カラ申スノデアリマシテ、一字ヤ二字間違テ居ルカ知レヌガ、第二項ニ何ト書イテアルカト云フト「起業者ニ於テ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ時ヨリ六月以上ノ期間ヲ定メ建物ノ移轉ヲ要求スル場合ニ於テ其ノ建物ニ付期間ノ定ナキ賃借權又ハ移轉スヘキ期間内ニ終了スル期間ノ定アル賃借權ヲ有スル者ハ關係人ト看做サス」ト云フ箇條ガアル、折角第一條ニ於テ其權利ヲ認メ、其損害ノ補償ヲ爲スベキ利害關係人ノ中ニ認メラレナガラ、第二項ニ至リテハ全ク之ヲ抹殺シテ居ルハ、之ニ就テ昨年モ當時委員會ニ於テ屢々、應答モ重ナマシタガ、何分政府ハ了解シテ居

ルヤウナ了解シナイヤウナ、法案ノ改正ヲ爲スデモ、實際所謂魂ガ入ッテ所ノ法案トナシテ居ラヌデアリマス、借家法ノ上カラ見マシテモ、聊カ是ハ矛盾ナ嫌ガ無いトモ思ハレナイ、借家法ニ何ト書イテアルカト云フト、建物ノ賃貸ハ登記ナキモ引渡ヲ受ケタルモノニアラズ、其權利者ニ對シテ效力ヲ有スルト云フコトガ書イテアル、ソレカラ第二條ニハ建物賃借ノ期限満了ヲ告ケタル時ニ於テ、賃借人ガ何等ノ異議ヲ即座ニ言ハナイトキハ、尙ホ前ノ契約ヲ繼續スルモノト看做スト、斯ウ書イテアル、今日此賃借者ト家主トノ間ニ行ハレテ居ル状態ハドウデアアルカト云フト、殆ド書面ノ無いト云フモノガ多ク、初ハ借主ノ身元ヲ疑ヒ、相當ノ保證人ヲ要求スル爲ニ所謂契約書ヲ取ルデアリマス、併ナガラ其借主ガ所謂家賃ヲ滞リナク拂ヒ、其賃借人ノ爲ニ其店舖ガ繁昌スルト云フコトニナレバ、喜ンデ持主ハ之ヲ永久ニ貸與スルト云フコトヲスルデアアル、然ルニ今日此收用法ガ、折角國民ノ大切ナル所ノ權利ハ保障サレタカト思フト、一方ニハ之ヲ抹殺サレテ居ル、吾々ハ斯ク申スノハ甚ダ必要ナキコトヲ申スヤウニ御考ノ方モアルカモ知レマセヌケレドモ、住宅ノ軒ヲ列ベテ居ル處ニ於テ、所謂店舖ノ賃借等ニ至テハ住宅スラ其行詰リ想フル今日ニアラズ、客易ニ之ヲ借替ヘルト云フコトハ出來ナイ、東京市中ノ如キ、大阪ノ市中ノ如キハ勿論デアル、郡部ニ至テモ間口僅カ三間半位デ權利ノ六千圓、甚シキニ至テハ一坪千圓以上ノ權利ヲ要求スルヤウナ場所ガアル、斯ル時ニ於テ數年ノ丹精ニ依テ、店ラシキ店ガ出來タ所ガ、一朝收用法ニ依テ政府ハ補償ヲスルガ如キ規定ヲ設ケテアデモ、契約者ガナク、契約ガ切レテ居ル、借家法ニ依テ云ヘバ、契約ガ切レテモ賃主ガ何トモ言ハナケレバ繼續スルト書イテアル、所ガ此收用法ハ寧ろ借家法ノ精神ヲ破壞シテシマデ、斯ルモノニ對シテハ何等ノ保障ヲモ與ヘズ、金ク之ヲ路傍ニ遺棄スルガ如キ状態ニ置カシムルト云フコトハ、現代ノ法制トシテハ逆モ吾々ハ看過スルコトガ出來ナイ、是ハ實際問題デアアル、議論デハナイ、此點ニ付キマシテハ昨年モ屢々委員會ノ問題ニナシテ居ル、勿論内務大臣ハ御送りニナシテ居ルガ、内務省ノ是等ニ關係ナ方々ハ餘リニ多クハ迷テ居ラヌ、極テ大事ナ事デアリマスカラ、内務大臣ヨリ特ニ之ニ對シテ御答ヲ願ヒタイト思フノデス、今一ツハ近來此都下ニ起タ事柄デ、此改正法案ノ上ニ付テ當局ノ考慮ヲ請ハネバナラヌ事柄デアリマスカラ、之ヲ引用シテ御意見ヲ伺テ置キタイト思フ、ソレハ何デアアルカト云

フト、現行收用法ニ、土地審査會ガ決定シタ後ニ於テ、起業者ハ其審査會ノ決定額タケノ金ヲ積シテ、サウシテ事業ニ若手スルト云フコトガアル、是ハ法文通りノ實際デアリマスガ、之ヲ惡用スルデアアル、審査會ガ積シタ金ヲ積シテ呉レ、其價格ニハ承諾ハ出來ナイトシテモ、其金ノ幾分ヲ殘シテ、之ヲ日本銀行カラ取下ゲテ、移轉ノ準備ヲスル、然ルニ實際ハドウカト云フト、立退ノ期間ガ三月三十日アレバ、三十日間近ニナデ初メテ供託ヲスル、供託サレテモ其時ニ金ヲ取下ゲテハ移轉ガ間ニ合ハヌ、收用法ノ爭ハ移轉、非移轉デナクシテ、補償ノ金額如何デアリマスカラ、補償ノ金額ニ同意シ得ナイ時分ニ、爭フニシテモ家ハ先ヅ明ケル、審査會ガ濟シタ後ニハ命ゼラレタ期間内ニハ立退カナケレバナラヌデアアルガ、立退クコトモナラヌ、金ハ勿論ナシ、法律ノ保障ガアデモ、法律保障ニ依テ之ヲ司法裁判ニ訴ヘルト云フコトモ出來ナカラシムルガ如キ、行政上ノ手段ノ壓迫ノ爲ニ、法律上ノ保護ト云フコトハ何モナラナクテ居ル、現ニ此事ハ都下ニ起タ事實ノ上ニ明ニ其事實行テ示シテ居ル、斯カル事ハ收用法ガ如何ニ綿密ニ所有權ヲ保護シテモ、行政官ノ手心一ツデ此法ノ精神ハ滅却サレル、ソレ故ニ政府當局ハ極テ能ク御承知デアアルデアリマスカラ、法文ノ中ニ斯ル事ノ起ラナイヤウニ、審査會ガ濟シタナラ直グ金ヲ提供スルト云フコトノ法條ヲ御設ケニナラナケレバナラヌ、此二點ニ付キマシテ内務大臣ノ御答ヲ請ヒタイト思フノデアリマス

○議長(種谷義三君) 塚本政府委員

(政府委員塚本清治君登壇)

○政府委員(塚本清治君) 只今高木君カラノ御尋ニ對シテ御答ヲ致サウト思ヒマス、第一番目ノ御尋ハ、改正法案第五條中ニ改正ヲ加ヘタノハ宜カケレドモ、直ニ其次ニ一項ヲ加ヘテ、折角賃借權ヲ保護シナガラ、或ル制限ヲ同時ニ附加シタ爲ニ、賃借權ノ補償ガ十分デナイデハナイカト云フヤウナ御趣意ト承リマシタ、賃借權ノ保護ハ最も必要ト考ヘマシタノデアリマスガ、又同時ニ事業ノ進捗ヲ適當ニ圖ルヤウニシナケレバナラヌト思フ、ソレデ六箇月以上ノ期間ノ賃借權ハ、之ニ依テ保護致シマスケレドモ、期間ノ定メナイモノ、或ハ六箇月ノ期間内ニ移轉スベキ期間ノ定メアル賃借權ノ例外トシテ、保護シナイコトモ致シタノデアリマス、ソレハ期間ノ定メナキ賃借權ニ付キマシテハ、御承知ノ通り借家法ニ於テ六箇月ノ期間ヲ以テ解約ノ申入ガ

出來ル、ソレ故ニ借家法ト步調ヲ一ニシマシテ、六箇月以内ニ移轉スレバ、借家法ノ六箇月ノ保護ト同ジタケノ保護ガ受ケラレル、ソレ故ニ借家法ト同一歩調ヲ執リマシテ、六箇月以内ニ移轉ノ出來ルヤウニサヘスレバ保護ハ届クト考ヘタノデアリマス、又六箇月以内ニ終了スル期間ノ定メアル賃借權ニ付キマシテハ、最早六箇月ノ期間ヲ猶豫期間トシテ與ヘルデアリマスカラ、其以上ニ保護スル必要ハ無いト云フヤウニ考ヘタノデアリマス、ソレカラ第二ニ店舖ノ經濟上ノ價格ト云フモノヲ認メテ、之ニ補償ヲ與ヘル必要ガアルト思フガドウカ、此點ニ於テ改正法ガマダ届イテ居ナイヤウニ思フガト云フヤウナ御趣意ト承リマシタガ、此點ハ現行法ニ於キマシテモ、第四十七條デアリマシタカ、收用サル、者ノ通常受クベキ損失ノ補償トシテ、營業權若クハ店舖ノ權利ガ經濟的價格アリト認メマシタナラバ、之ニ向テ相當ノ補償ヲ與フベキコトニ法律ノ規定ガ出來テ居ルデアリマス、從來ニ於キマシテモ行政官廳ニ於テ左様ニ取扱タ例モアリマス、若シ爭ガ起リマシタナラバ、只今ノ條文ノ通常受クベキ損失ト云フ中ニ入ルコトノ解釋ニ依テ、補償ヲ與ヘテ然ルベキコトニ考ヘル、ソレ故ニ殊更改正ヲ致スコトヲ致シマセヌデアリマシタ、第三番目ノ供託金ノコトヲ御尋ニナリマシタガ、此點ハ改正ノ必要ヲ認メマセヌデ、其點ニハ觸レナイデ置キマシタノデアリマス

○議長(種谷義三君) 田川大吉郎君

(田川大吉郎君登壇)

○田川大吉郎君 私モ本案ニ對シテ政府ノ所見ヲ質シテ置キタイノデアリマス、高木君ノ質問ノ要旨ヲ明白ニハ聽取リ得マセヌデシタ、隨テ或ハ重複スルコトニナルカモ知レマセヌガ、質問ノ第一項ハ第五條ニ關係ヲ持テ居リマス、從來ノ土地收用法ノ規定ニ依リマスレバ、主トシテ有形ノ權利ヲ補償スルコトニ止マデ居リマシタ、無形ノ權利ニ關シテハ之ヲ補償シタル實例ハアリマスケレドモ、法文トシテ之ヲ保護スルコトハ明確ヲ缺イテ居タノデアリマス、只今ノ政府委員ノ高木君ノ質問ニ對スル御答辯ニ依リマスレバ、其無形ノ權利ヲ補償スルコトハ現在ノ規定ニ依テ差支ナイト云フ御解釋ノヤウニ承リマシタガ、果シテサウデアリマスガ、此點ヲモウ一度念ヲ押シテ置キタイ、繰返シテ御言明ヲ願フテ置キタイ、今度ノ第五條ノ改正ノ「賃借權又ハ擔保權ヲ有スル者」ト云フ文字ハ、私共ノ希望致シマス所、竝ニ現在土地收用法ノ實際ノ運用ニ行ハレテ居リマス所ニ照シテ

申シマスレバ、未ダ足ラザル所ノアルヤウニ感ズルノデアリマス、無形ノ權利ヲ保護スルコトニ未ダ足ラザル所ノアルヤウニ感ズルノデアリマス、現ニ無形ノ權利トシテ要求セラレテ居ル所ノモノハ、場所代若クハ造作代ト云フ名稱ニ依テ取扱ハレテ居リマス、此場所代若クハ造作代ト云フ名稱ニ依テ取扱ハレテ居リマス權利ハ、其土地ガ收用セラレ、移轉セシメラル結果トシテ、從來其處ニ營業シテ居リマシタ所ノ人ガ、他ノ地方ニ移轉シマスニ當テ、從來ノ營業ニ伴フ得意先ヲ失フノデアリマス、若クハ從來ノ營業ヲ其移轉ノ爲ニ休止セラレルヤウニナルノデアリマス、斯ノ如キモノヲ當然補償セナクバナリマセヌケレドモ、今日迄ノ法律ノ運用ノ實際ニ於テハ、ソレガ始終疑問トナリ來タノデアリマス、折角改正セラレル以上ハ、是等ノ權利ヲ補償スルコトニ法律ヲ以テ明確ニ規定セラレル必要ガアルト思ヒマスガ、今回ノ御提案ニ於テハ、其事ガ明瞭ヲ缺イテ居ルヤウニ思ハレマス、是等ノ事實ト、此事實ニ適合セシムベキ法律ノ規定トノ其關係ニ於ケル政府ノ所見如何、斯ウ云フノガ私ノ第一ノ問デアリマス、第二ニ高木君ノ問ト同ジ事項ニ關聯シテ居ルト思ヒマスガ、現行法規ノ第六十條ノ關係デアリマス、「起業者ハ收用又ハ使用ノ時期マデニ補償金ヲ拂渡スヘシ」起業者ガ土地ヲ收用セラレタ者ニ對シテ補償金ヲ拂渡シマス時期ガ、收用又ハ使用ノ時期マデニトナテ居リマス、實際ニ於テハ其家屋ヲ買收セラレ、土地ヲ買收セラレル所ノ者ハ、モト早ク其補償金ヲ拂渡サレル必要ヲ感ズル、其補償金ナシニハ他ニ移轉スルコトハ出來ナイノデアリマス、東京方面ニ行ハレテ居ル實際ノ習慣カラ申シマスレバ、多クハ早目ニ前渡シテ致シテ居ルノデアリマス、今回改正セラレル以上ハ、其實地ノ慣例ニ伴フヤウニ之ヲ規定セラレル必要ガアタト思ヒマス、政府ハソレニ對シテドウ云フ見解ヲ持テ居ラレタノデアラウカ、サウ云フ必要ハ無イ、現在ノ規定ノ儘ニシテ、其運用ニハ差支ナシト云フ御見解デアッタラウカ、其所見ヲ伺ヒタイ、是ガ第二デアル、事ハ内務省ノ直接ノ關係ニ屬シテ居リマス故ニ、私ハ之ニ對シテ更ニ數言ノ説明ヲ加ヘル必要ヲ感ズルノデアリマス、只今申上ゲマスヤウニ、補償金ハ土地ヲ收用セラレ、若クハ使用セラレ、起業者ガ其土地ヲ收用シ若クハ使用スル時期マデニ之ヲ拂渡スノデアリマスカラ、現在ノ取扱ノ習慣トシテ一部ノ習慣トシテ早目ニ之ヲ拂渡シマスコトハ、法律ノ規定ニハ反イテ居ルノデアリマスケレドモ、實際ノ必要已ムヲ得マセヌデ早目ニ之ヲ拂渡

シツ、アル、此事實ヲ内務省ガ若シ検査官ヲ市町村ノ役場ニ派遣シテ、此取引ノ實際ヲ調べマシタトキニハ、是ハ法律違反トナラナクバナラヌノデアリマス、隨テ此問題ニハ直ニ官紀ノ紊亂ト云フヤウナ問題、綱紀ノ肅正ト云フヤウナ問題ガ起ルノデアリマス、係ノ吏員ガ法律ニ反イテ早目ニ拂渡シタ、此ニ情實ガアル、此ニ不正ガアル、此ニ腐敗ガ行ハレタトシテ、當該ノ係員ハ非常ナル苦シイ破目ニ陥ラナクバナラナイ法律ノ規定ニナラデ居ルノデアリマス、此境遇カラ當該ノ係員ヲ救ヒ出シマスコトハ、當然ニ内務省ノ責任デアッテ、又此法律ノ規定ノ目的ノ一ツデナクテハナラナイ、然ルニ折角ノ御改正デアリマスガ、其點ニ對スル注意ヲ缺イテ居ラレルヤウニ思フ、内務省ハ之ヲ此儘ニシテ置イテ實際ニ差支ナイ、法律ノ規定ト當該係員等ノ實際ノ運用トノ間ニ、ソレダケノ懸隔ヲ生ジテ居テモ、實際ニ於テハ何等ノ差支ナシト云フ御見解デアラレルヤウ否ヤ、此事ヲ第二段ノ質問ニ附加ヘテ、此場合ニ於テ御説明ヲ仰イデ置キタイト思ヒマス

〔政府委員塚本清治君登壇〕

○政府委員(塚本清治君) 只今御尋ノ所謂無形ノ權利、是ハ先刻高木君ノ質問ニ對シテ御答申上ゲマシタ通り、五十四條ノ規定ニ依リマシテ、其所謂無形ノ權利、營業權ト稱シ、或ハ老舖ト云ヒ、其無形ノ權利ガ時代ニ依テ漸次經濟的價值ヲ認メラル、ニ至リマシテ、其價值ガ失ハレ、通常受クル損失ト見積ラレタトキニハ、之ヲ補償シナクバナラヌト云フ現行法デアリマシテ、此規定ノ運用ニ依リマシテ、只今御尋ニナリマシタヤウナ、所謂無形ノ權利ガ、補償セラレテ居ル場合ガアルノデ、是マデノ實例ニ於テ既ニアルノデアリマス、併ナガラ其所謂無形ノ權利ト稱セラル、モノガ、時ト場所トニ依テ未ダ經濟的價值アリト見積ラレナイ場合ニハ、通常受クベキ損失ノ中ニ這入リマセヌカラ、斯様ナ場合ニ於テハ補償ハ得ラレナイ、ケレドモ苟モ經濟上ノ價值アリト見積ラレマシタトキニハ、矢張五十四條ノ規定ニ依テ、補償セラル、コトニ規定ハ出來テ居ルノデアリマスカラ、殊更ニ之ヲ改正スル必要ヲ認メナイノデアリマス、次ニ六十條ノ補償金ノ拂渡デアリマスガ、是ハ實際ニ於テ收用又ハ使用ノ時期前ニ拂デ居ルコトヲ妨ゲマセヌケレドモ、法律ノ規定ト致シマシテハ、收用ニ依テ失フ權利、使用ニ依テ受クル權利ノ制限ニ對スル代償デアリマスカラ、其收用又ハ使用ノ時期ニ於テ補償金ヲ拂渡サセルコトニ定メルコトガ、

法規トシテハ當然ノ事デアルト信ズルノデアリマス(拍手)
○議長(粕谷義三君) 日程第四、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第四 右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉

○岩崎勲君 委員ノ數ハ特ニ二十八名トシ、議長ニ於テ指名アラシコトヲ望ミマス

○議長(粕谷義三君) 岩崎君ノ動議ニハ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第五、第六ハ關聯シテ議案デアリマスカラ、一括議題ト爲スニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、乃チ茲ニ日程第五、工場法中改正法律案、日程第六、工業労働者最低年齡法案、右二案ヲ一括議題ト致シ、其第一讀會ヲ開キマス

第五 工場法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

工場法中改正法律案

工場法中左ノ通改正ス

第一條中「十五人」ヲ「十人」ニ改ム

第二條 削除

第三條中「十五歳」ヲ「十六歳」ニ、「十二時間」ヲ「十一時間」ニ改ム

第四條中「十五歳」ヲ「十六歳」ニ、「午前四時」ヲ「午前五時」ニ改メ左ノ但書ヲ加フ

但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ午後十一時迄就業セシムルコトヲ得

第五條 削除

第六條 削除

第七條 工業主ハ十六歳未満ノ者及女子ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ、一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ於テ設クヘシ

前項ノ休憩時間ハ一齊ニ之ヲ與フヘシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

夏季ニ於テ一時間ヲ超ユル休憩時間ヲ設クル場合ニ於テハ工業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ超ユル時間以内就業時間ヲ延長スルコトヲ得但シ其ノ延長時間ハ一時間ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條中「第三條乃至第五條」ヲ「第三條、第四條三、及第五條ノ規定ニ拘ラス職工」ヲノ規定ニ拘ラス十六歳以上ノ女子ニ改メ左ノ但書ヲ加フ

但シ急速ニ腐敗シ又ハ變質スル虞アル原料又ハ材料ノ損失ヲ防ク爲必要ナル場合ニ於テハ繼續四日以上ニ亙ラス且一月ニ付七日ヲ超エサル限り行政官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

第九條乃至第十一條中「十五歳」ヲ「十六歳」ニ改ム

第十二條中「産婦」ヲ「産前産後、若ハ生兒、哺育中ノ女子」ニ改ム

第十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ工業主ニ命シタル事項ニ付必要ナル事項ヲ職工又ハ徒弟ニ對シ命スルコトヲ得

第十四條 當該官吏ハ工場若ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢シ又ハ就業ノ禁止制限ヲ爲スヘキ疾病若ハ傳染ノ虞アル疾病ニ罹レル疑アル職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

第十五條 工業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ職工ノ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ

第十六條中「戶籍吏」ヲ「戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者」ニ改ム

第二十條 工業主又ハ前條ニ依リ工業主ニ代ル者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條中「本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違背スル所爲ヲ爲シタルトキハ」ヲ「本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ」ニ改ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法中十六歳トアルハ本法施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス

職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ本法施行後三年間ハ第四條ノ規定ヲ適用セス

前項ノ規定ニ依リ十五歳未満ノ者及女子ヲシテ就業セシムル場合ニ於テハ毎月少クトモ四回ノ休日ヲ設ケ十日ヲ超エサル期間毎ニ其ノ就業時ヲ轉換スヘシ

第六 工業労働者最低年齡法案(政府提)

出)

第一讀會

工業労働者最低年齡法案

工業労働者最低年齡法

第一條 本法ニ於テ工業ト稱スルハ左ニ掲クル事業ヲ謂フ

一 鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他土地ヨリ鑛物ヲ採取スル事業

二 物品ノ製造、改造、淨洗、修理、裝飾、仕上、販賣ノ爲ニスル仕立、破壊若ハ解體ヲ爲シ又ハ材料ノ變造ヲ爲ス事業(造船業及電氣又ハ各種動力ノ發生、變更及傳導ヲ爲ス事業ヲ含ム)

三 土木、建築其ノ他工作物ノ建設、改造、保存、修理、變更、解體又ハ其ノ準備若ハ基礎工事

四 道路、鐵道、軌道又ハ平水航路ニ於ケル旅客又ハ貨物ノ運送但シ主トシテ人力ニ依ル運送ヲ除ク

五 船渠、岸壁、波止場又ハ倉庫ニ於ケル貨物ノ取扱

第二條 十四歳未満ノ者ハ工業ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ十二歳以上ノ者ニシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル事業又ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ工業ニ關スル學校ニ於テ兒童ニ爲サシムル作業ニ之ヲ適用セス

第三條 十六歳未満ノ者ヲ工業ニ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ住所、氏名、生年月日及學歷ヲ記載シタル名簿ヲ調製シ作業場ニ備付クルコトヲ要ス但シ工場法施行令又ハ鑛業法ニ依ル名簿ノ備付アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 當該官吏ハ作業場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帶ス

第五條 工業ニ就業シ若ハ就業セムトスル者又ハ使用者ハ就業シ又ハ就業セムトスル者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第六條 第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 第三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 使用者若ハ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ使用者ニ適用スヘキ罰金ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

第九條 使用者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十條 本法ニ於テ使用者ニ關スル規定ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ在リテハ工業主ニ、工場管理人アル場合ニ於テハ工場管理人ニ、鑛業ニ在リテハ鑛業權者ニ、鑛業代理人アル場合ニ於テハ鑛業代理人ニ之ヲ適用ス

第十一條 本法ハ罰則ヲ除クノ外國、府縣、市町村其ノ他之ニ準スベキ者ノ使用者タル場合ニ之ヲ適用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際十二歳以上ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付第二條ノ規定ハ之ヲ適用セス

(國務大臣水野鍊太郎君登壇)

○國務大臣(水野鍊太郎君) 只今日程ニ上リマシタ兩案ノ説明ヲ致シマス、御承知ノ如クニ、現行工場法ハ明治四十四年ノ制定ニ係リタノデアリマシテ、今日迄十一年餘ヲ經過致シタノデアリマス、此間ニ於キマシテ、時勢ノ進運ニ伴ヒマシテ、多數労働者ノ保護ヲ厚ク致シマシテ、其健康ノ増進ヲ圖リ、以テ國民衛生ノ向上ヲ期シマスル同時ニ、労働力ノ保全ニ努メマシテ、我國工業ノ基礎ヲ培養スルノ必要アルハ勿論デアリマス

〔粕谷議長議長席ヲ退キ松田副議長代リ著席〕

此趣旨ニ基キマシテ本案ヲ提出致シタノデアリマス、本案改正ノ要旨ヲ申上ゲマスレバ、現行法ニ於キマシテハ工場法ノ適用範圍ガ原則ト致シマシテ十五人以上ノ職工ヲ使用スル工場ニ限ラレテ居ルノデアリマス、之ヲ十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ニ及ボシタノデアリマス、又保護職工ノ範圍ハ、現行法ニ於キマシテハ女子及十五歳未満ノ者ト致シテ居リマス、女子及十六歳未満ノ者ト改メタノデアリマス、又保護職工ノ一日ノ就業時間ヲ現行法ハ原則ト致シマシテ十二時間トナシテ居リマス、一時間短縮致シマシテ十一時間ト致シタノデアリマス、又保護職工ノ深夜業ノ禁止ハ現行法ニ於キマシテハ、尙ホ八年餘リノ豫期間ヲ殘シテ居ルノデアリマス、之ヲ三年ニ短縮スルコトニ致シタノデアリマス、又深夜ノ範圍ハ、現行法ハ午後十時ヨリ午前四時迄ト致シテ居ルノデアリマス、原則ト致シマシテ午後十時ヨリ午前五時迄ト致シタノデアリマス、是等ノ改正ハ主トシテ前ニ述ベマシタガ如クニ、労働者ノ保護ヲ厚クシ、工業能力ノ増進ヲ圖ラントスル趣旨ニ外ナラナイノデアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラント望ミマス〔拍手〕次ニ工業労働者ノ最低年齢法、是ハ此度新ニ提出セラレタノデアリマス、其趣旨ハ工業ニ従事シ得ル労働者ノ最低年齢ヲ定メマシテ、其年齢ニ達シマセヌ幼年者ヲ、工業ニ使用スルコトヲ禁止セントスルニ在リマス、即チ心身ノ發達未ダ十分デナイ幼年者ヲ工業労働ニ使用致シマスルコトハ、其健全ナル發育ヲ妨ダマシテ、教育ヲ受ケル期間ヲ失ハシメ、其將來ヲ傷ツケルノミナラズ、之ヲ國家的見地ヨリ見マスルトキニハ、將來ニ於キマスル労働ノ供給ヲ減少致シマシテ、國民ノ經濟力ヲ減殺シ、國民全體ノ健康ノ發達ヲ阻害スルニ至ルノデアリマス、ソレデアリマス、ソレカラ各國何レニ於キマシテモ、幼年者ノ工業労働ヲ禁止シテ居ルノデアリマス、我國ニ於キマシテモ、其必要ヲ認メテ居リマシテ、現行工場法及工業法ニ依リマシテ幼年者ノ就業ヲ禁止シテ居ルノデアリマス、併ナガラ現行法ハ何レモ十二歳ヲ以テ最低年齢ト爲シテ居ルノデアリマス、且ツ工場法ニ於キマシテハ、輕易ナル業務ニ付キマシテハ、十歳以上ノ者ノ就業ヲ許可シテ居ルノデアリマス、ソレカラ、幼年者保護ノ上ニ於キマシテ、其最低年齢ガ低キニ失シテ居ルト思フノデアリマス、又我國義務教育ノ制度ト矛盾スルノ嫌モ無イノデアリマス、且其適用ガ鑛山及工場

法ヲ適用スル工場ニ限ラレテ居リマシテ、適用範圍ガ狭キニ過グルノ憾ガアルノデアリマス、且又本年華盛頓會議ニ於テ開カレマシタ、國際労働總會ニ於キマシテ決議致シマシタ事柄ヲモ參酌致シマシテ、此法案ヲ制定致シマスルコトニ云フコトハ、我國現下ノ狀況ニ必要ナルモノト考ヘタノデアリマス、此趣旨ニ於キマシテ本案ヲ提出致シマシタノデアリマス、ルカラ、是亦御審議ノ上御協賛ヲ給ハランコトヲ希望致シマス〔拍手〕

○副議長〔松田源治君〕 本案ニ付テ質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——田川大吉郎君

〔田川大吉郎君登壇〕

○田川大吉郎君 本案第三條ノ中、十五歳ヲ十六歳ニ改メ、十二時間ヲ十一時間ニ改メラレマシタ改正ノ御趣意ニ對シテハ、勿論賛成デアリマス、此第三條ノ次ノ項ニ於テ、現存セル法規デアリマス、即チ次ノ項ニ於テ、原則トシテ十二時間ヲ更ニ二時間ダケ延長スルコトガ出來ルト云フ規定ニナシテ居リマス、隨テ原則ハ十二時間デアリマス、ケレドモ或ル場合ニ於テハ之ヲ十四時間迄延長シテ使役スルコトガ出來ル法律ノ規定ニナシテ居リマス、今回其原則ノ十二時間ヲ十一時間ニ短縮セラレマシタケレドモ、此次ノ條項ガ存シテ居リマス以上ハ、矢張十一時間ヲ十三時間マデ延長シテ使役スルコトガ出來ル譯デアアル、一體此工場法ハ制定ノ當時、原則ハ相當ニ立派ニ立テラレタノデアリマス、種種ナル場合ニ於テ例外規定ヲ設ケテ、此原則ヲ不合理ト申シテハ語弊ガアリマセウケレドモ、原則ノ目的ノ貫徹ヲソレニ依テ——例外ノ規定ニ依テ抑制セラレタル場合ガ幾ツモアル、其例外ノ規定ニハ矢張十五年ト云フ期限ガ付イテ居リマシタ、此法律制定ノ後十五年ノ間ハ云々スルコトガ出來ヌ、十五年ト云フ期限ヲ設ケテ例外規定ヲ立テ、アリマシタ、今日其十五年ヲ待タズシテ、十五歳ヲ十六歳ニ、十二時間ヲ十一時間ト致スヤウ改正ヲ企テラレマシタ際ニ、其例外ノ規定ノ二時間ヲ何故ニ修正スベク、御盡力下サラナカッタデアラウカ、之ヲ第一ノ間ト致シマス、原則ハ十一時間ニナシタケレドモ、例外ノ規定ノ二時間ハ尙ホ存シテ居ル、其例外ノ規定ハ十五年ト云フ期間ヲ目標トシテアリマス、彼ノ條文ニ於テ、十五年ヲ待タザル今日ニ於テ改正セラル、以上ハ、其二時間モ亦十五年ヲ待タザル今日ニ於テ改正セラル、ノガ適當デアラウ、政府ハ其必要ヲ認メラレマセヌデシタカト云フノガ第一ノ間デアリマス、第二ハ第十

二條ニ關係ガアリマス、第十二條ニハ〔産婦〕ヲ〔産前産後、若ハ生兒、哺育中ノ女子〕ト改正セラレタル、是モ改正ノ御趣意ニ賛成ヲ表スル者デアリマス、御尋ヲシタイノハ此産前産後ノ期間ハドレダケデアルカ、期間ガ問題デアリマス、産前ノ女子ニ對シテドレダケノ間休養ノ餘格ヲ認メルカ、産後ノ女子ニ對シテドレダケノ間休養ノ餘格ヲ認メルカ、此期間ガ問題デアリマス、サウシテ此期間ガ茲ニ明白ニ規定セラレタナイコトヲ、此法ノ缺點ハナナカト感ズルノデアリマス、此事ヲ他ノ勅令ヤ何カノ規定ニ御譲リニナルコトハ私共トシテハ甚ダ不満足ニ思フ者デアル、海外ノ立法例ハ斯ウ云フ場合ニ於テ必ず之ヲ規定シテ居ル、契約ノ自由ノ原則ニ基イテ、女子子供ハ其自由ノ能力ヲ缺イテ居ル所カラ、法律ニ於テ細カニ之ヲ保護スル必要ヲ認メ、彼等ハ此規定ヲ設ケルコトニ頗ル注意ヲ拂ツテ居ルノデアリマス、今回之ヲ改正セラル、ニ當テ、此點ニ對シテ立法ヲ懈ラレタヤウナノハドウ云フ譯デアルカ、ドウ云フ御趣意デアルカ、是ガ第二ノ十二條ニ關スル一ツノ間デアル、ノミナラズモウ一ツ此事ニ付テ間ヲ進メテ置キタイ、産前産後ノ女子ニ相當ノ休養ノ期間ヲ與ヘマスル、強テ資本家ハ此場合ニ於テ之ヲ解雇スルノデアリマス、解雇スルノデアル、其解雇ヲ解雇セシメナイヤウニ法律ヲ以テ保護スル必要ガアル、此事ニ關スル政府ノ所見如何、又解雇シマセヌマデモ、此休養ノ間ニ於テ、賃銀ヲ支拂ハナケレバ其產婦並ニ其子供ハ安全ニ生存スルコトハ出來ナイノデアリマス、故ニ解雇セシメザル制限ヲ設クルノミナラズ、此場合ニ於テ其賃銀ヲ保障スルコトヲ法律ヲ以テ保護シテヤル必要ガアルト思ヒマス、又海外ノ實例ハサウナシテ居リマス、此際其事ノ規定ノナカッタ理由ハ何デアアルカ、其必要ヲ御認ニナラナカッタデアルカ、若シ其法律ノ保護ガナケレバ、産前産後ノ女子ハ第十二條ニ於テ幾分か保護セラレントシテ、保護ノ趣意、保護ノ精神ハ此條文ノ中ニ幾分か現レテ居ルニ拘ラズ、實際ニ於テハ解雇セラレ若クハ賃銀ヲ支拂ハレズシテ非常ノ窮境ニ陥ル虞ガアル、此虞ニ對シテ政府ハドウ云フ見解ヲ執ツテ居ラレカ、私共ハ當然ニ其事ヲ此條文ノ中ニ加ヘテ下サルデアラウト期待シテ居リマシタ、ソレヲ加ヘラレナカッタ理由ハ何處ニアルカ、是ガ第二ノ間デアリマス

○副議長〔松田源治君〕 塚本政府委員

〔政府委員塚本清治君登壇〕

○政府委員〔塚本清治君〕 工場法改正案中第三條ノ規

定ノ改正ニ關シテ御尋ニ對シテ御答致シマス、其第一項ニ於キマシテ、十二時間ノ一時間短縮致シテ十一時間ト致シタノ宜イトシテ、其第二項ニ於テ主務大臣ガ二時間以内延長スルコトノ出來ルト云フ規定ヲ、何故依然トシテ存續セシムルカト云フコト、承リマシタガ、是ハ御尤ナ御質問デアリマスガ、政府ニ於キマシテハ御承知ノ施行令ニ於キマシテ、工場法施行後五年間ハ法律ノ只今ノ規定通り二時間ノ延長ヲ認メマシテ、現行法ニ依リマシテ十四時間マデ從業セシムルコトヲ認メテ居ルノデアリマス、併ナガラ五年ヲ經過シテ、アト十年間ハ一時間ダケノ延長デ、都合十三時間ノ從業ヲ認メテ居ルニ過ギナイノデアリマス、ソコデ改正法ニ於キマシテ十二時間ヲ十一時間ニ短縮致シマシタ結果、矢張施行令ノ趣旨ヲ變ヒマシテ、今後ハ單ニ一時間ダケノ延長ニ止マルノデアリマス、一時間ダケノ延長ニ又止メルノデアリマス、即チ都合十二時間ノ就業時間ニナルノデアリマスカラ、左様御承知ヲ願ヒタウ存ジマス、次ニ產婦ヲ改メテ、產前產後ニ於テ女子ヲ保護スルノ規定ニ付キマシテ、產前產後ノ期間ハ幾許デアリカト云フ御趣意ノ御尋ト承リマシタガ、是ハ施行ニ關シマス勅令ニ依リマシテ、極ク明ニ期間ヲ定ムル豫定デアリマスガ、只今ノ見込デハ產前產後各、三四週間ノ見込デアリマス、此期間内ニ於テ或ハ解雇セラルルヤウナ憂ハナイカ、之ヲ防グコトヲシナイカト云フ御尋モゴザイマシタガ、是ハ御承知ノ昨年四月發布ニナリマシタ健康保險法ニ於キマシテ、產前產後ノ女子ノ労働者ニ對シマシテハ、其給料ノ幾割ト云フモノヲ手當ト致シマシテ、給付スルコトノ規定ニナテ居リマスカラ、之ニ依テ相當保護ノ途ガ立テテ居ルト信ズルノデアリマス

○副議長(松田源治君) 日程第七、右各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第七 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 日程第五及第六ノ兩案ヲ一括シテ、安達謙藏君外六名提出、職業紹介法中改正法律案外四件ノ委員ニ併セテ付託シ、且ツ特ニ其委員ノ數ヲ十八名ニ増加シ、又追加ノ分九名ハ新ニ議長ニ於テ指名セラレンコトヲ望ミマス

〔賛成〕下呼フ者アリ

○副議長(松田源治君) 岩崎君ノ動議ニ異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス——日程第八、廢兵院法中改正法律案ヲ議題ト致シ其第一讀會ヲ開キマス——國務大臣水野鍊太郎君

第八 廢兵院法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

廢兵院法中改正法律案

廢兵院法中左ノ通改正ス

第四條中「懲罰ヲ」懲戒ニ改ム

第六條 廢兵院ニ收容シタル者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ懲戒ヲ爲スコトヲ得

附則

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス。

〔國務大臣水野鍊太郎君登壇〕

○國務大臣(水野鍊太郎君) 本案ハ極テ簡單ナ案デアリマシテ、僅ニ二箇條ノ改正ニ過ギナイノデアリマス、從來廢兵ニ關シマシテハ、陸軍大臣主管ノ下ニ設置セル廢兵院ニ收容致シマシテ、之ヲ保護シ來タデアリマス、又一面軍事救護ニ關スル事務ハ、內務大臣主管ノ下ニ施行シ來タデアリマスガ、此度之ヲ統一シマシテ、從來ノ廢兵院ノ管理ヲ內務大臣ニ移管スルコトニスルノデアリマス、隨テ廢兵院ニ收容致シマシタル者ノ犯罪及審判ニ關シマスル變更ヲ加ヘル必要ガ生ジタデアリマス、即チ從來廢兵院ニ收容致シマシタル者ノ犯罪及審判ニ關シマシテハ、之ヲ現役軍人ト看做シテ居タデアリマス、ソレニ依リマシテ懲戒ヲ致シ來タデアリマスガ、此度所管ヲ變ヘマスニ付キマシテハ、廢兵院ニ收容致シマシタル者ノ犯罪及審判ニ關シマシテ、必シモ現役軍人ト同視スルノ必要ハナイ、單ニ院內ノ秩序ノ維持ヲ爲ス程度ニ止メテ差支ナイト云フコトニ致シマシタノデ、此法律ヲ改正致ス必要ヲ生ズルニ至ツタ所以ナノデアリマス、ドウゾ御審查ノ上御協賛アラントヲ望ミマス

○副議長(松田源治君) 日程第九、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 本案ハ高木正年君外二名提出、恩給法改正ニ關スル建議案外五件ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

ヲ望ミマス

〔賛成〕下呼フ者アリ

○副議長(松田源治君) 岩崎君ノ動議ニ異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス——日程第十、醫師法中改正法律案ヲ議題ト致シマス——國務大臣水野鍊太郎君

第十 醫師法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

醫師法中改正法律案

醫師法中左ノ通改正ス

第九條ノ五 道府縣醫師會ハ日本醫師會ヲ設立スルコトヲ得

日本醫師會ハ内地ヲ區域トス

道府縣醫師會ハ日本醫師會ノ會員トス

第八條第三項及前二條ノ規定ハ日本醫師會ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣水野鍊太郎君登壇〕

○國務大臣(水野鍊太郎君) 本案ハ極テ簡單ノ案デアリマス、即チ從來地方醫師會ナルモノガアツタデアリマス、之ヲ統一一致シマスル所ノ全國の醫師會ト云フモノハ無カッタデアリ、然ルニ我國ノ全體ノ醫師會ノ改良、衛生ノ進歩ヲ圖リマスガ爲ニハ、全國の醫師會ノ設立ノ必要ヲ認メルノデアリマス、即チ道府縣醫師會ノ全部ヲ會員ト致シマスル日本醫師會ヲ設立スルコトヲ得セシメマスル規定ヲ設ケル必要ガアルノデアリマス、是ガ本案ノ改正ヲ必要ト致シマシタ、茲ニ此改正案ヲ提出シタ所以デアリマス、何卒御審查ノ上御協賛ヲ希望致シマス

第十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 委員ノ數ハ九名トシ、議長ニ於テ指名セラレンコトヲ望ミマス

〔賛成〕下呼フ者アリ

○副議長(松田源治君) 岩崎君ノ動議ニハ異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス——日程第十二、船員ノ最

低年齢及健康證明書ニ關スル法律案ヲ議題ト致シマス—
國務大臣前田利定君

第十二 船員ノ最低年齢及健康證明書ニ 關スル法律案(政府提出)

第一讀會

船員ノ最低年齢及健康證明書ニ關スル法律案

第一條 本法ハ勅令ノ定ムル場合ヲ除ク外沿海航路
以上ノ航路ヲ航行スル船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス

第二條 十四歳未満ノ者ハ船員トシテ之ヲ使用スルコ
トヲ得ス

前項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル
船舶又ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ教習船ニ於テ兒童ニ
爲サシムル作業ニ之ヲ適用セス

第三條 十八歳未満ノ者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ
船舶内労働ニ適スルコトヲ證明シ且醫師ノ署名シタ
ル健康證明書ヲ有スルニ非サレハ船員トシテ之ヲ使用
スルコトヲ得ス但シ緊急已ムヲ得サル事由アルトキハ
此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ規定ニ依リ健康證明書ヲ有セサル者ヲ使
用シタルトキハ船長ハ最初ニ到著シタル港ニ於テ前項
ノ健康證明書ヲ得シムルノ手續ヲ爲スコトヲ要ス此ノ
場合ニ於テ健康證明書ヲ受クルコト能ハサル者ハ之ヲ
引續キ使用スルコトヲ得ス

第一項ノ健康證明書ノ有效期間ハ之ヲ一年トス航
海中其ノ期間満了スルトキハ該航海ノ終了迄其ノ效
力ヲ有スルモノト看做ス

前三項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用ス
ル場合ニ之ヲ適用セス

第四條 十八歳未満ノ者ヲ船員トシテ使用スル場合ニ
於テハ船長ハ其ノ本籍氏名及生年月日ヲ記載シタル
名簿ヲ調製シ船舶内ニ備付クルコトヲ要ス但シ十六
歳以上ノ者ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ右名簿ヲ
調製セサルコトヲ得

第五條 當該官吏ハ船舶ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合
ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

第六條 船員、船員タラムトスル者、船舶所有者又ハ船
長ハ船員又ハ船員タラムトスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍事

務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明
ヲ求ムルコトヲ得

第七條 第二條又ハ第三條ノ規定ニ違反シタル船舶所
有者又ハ船長ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ニ該當スル者未成年者若ハ禁治產ナル場
合又ハ法人ナル場合ニ於テ其ノ者ニ適用スヘキ罰則
ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表
スル者ニ之ヲ適用ス

第一項ノ規定ニ該當スル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、
同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ第二條又ハ第三
條ノ規定ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮
ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第八條 第四條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由
ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ
其ノ尋問ニ對シテ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲
シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 本法ニ於テ船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶
共有ノ場合ニ於テハ船舶管理人ニ、船舶賃賃借ノ場
合ニ於テハ船舶賃借人ニ之ヲ適用ス

第十條 本法ハ罰則ヲ除ク外國、府縣、市町村其ノ
他之ニ準スヘキ者ノ使用者タル場合ニ之ヲ適用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際十四歳未満ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ
於テハ其ノ者ニ付第二條ノ規定ハ之ヲ適用セス

本法施行ノ際十八歳未満ノ者ヲ引續キ使用スル場合
ニ於テハ其ノ者ニ付雇入期間ノ満了迄第三條ノ規定
ハ之ヲ適用セス雇入期間満了ノ際航海中ノ者ニ付テハ
該航海ノ終了迄之ヲ適用セス

〔國務大臣子爵前田利定君登壇〕

○國務大臣(子爵前田利定君) 本案提出ノ理由ヲ簡單
ニ御説明申上ゲマス、海上ニ勞働致シマス者ハ、其業務ノ
性質上家族ノ手許ヲ離レマシテ遠ク海洋ニ於キマシテ勞務
ニ服スル者デアリマス、故ニ此種ノ勞働ニ服シマス者ノ中、
兒童ノ最低年齢ニ付キマシテ適當ノ制限ヲ定メマス云フ
コトハ、洵ニ是ハ緊切ナ事ト信ズルノデアリマス、尙又兒童
年少者ヲ其船ニ乘組マスニ當リマシテ、體格ノ検査ヲ行フ
ト云フ如キ保護的ノ規定ヲ設ケマス云フコトハ、是等年
少者ノ訓育ノ上ヨリ致シマシテモ、又保健ノ上ヨリ致シマシ

テモ、是ハ考ヘナケレバナラヌト思フノデアリマス、故ニ政府
ニ於キマシテモ此邊ニ付キマシテ考究ヲ致シテ居リマシタ所、
勞働總會ノ第二回目ニ於キマテ、此兒童ノ最低年齢ヲ定
メル條約案ガ採擇サレタノデアリマス、又第三回ノ國際勞
働會議ニ於キマシテモ、兒童年少者體格検査ニ關シマスル
條約案ガ採擇サレタノデアリマス、故ニ政府ニ於キマシテモ、
此機會ニ於キマシテ海運ノ實況其他ヲ鑑ミマシテ、又今申
上ゲマシタ二條約案ノ趣意ヲ參酌致シマシテ、此法律案ヲ
提出致シタ次第デアリマス、何卒慎重御審議ノ上ニ御協賛
アラント望ミマス(拍手)

○副議長(松田源治君) 本案ニ付テ質疑ノ通告ガアリマ
ス、之ヲ許シマス—正木照藏君

〔正木照藏君登壇〕

○正木照藏君 少シク御尋フ致シタイ條項ガゴザイマス、
第一本案ハ何時カラ御實行ニナラントスル御考デゴザイマ
スカ、此事ヲ御尋スルト申シマス趣意ハ、是ハ只今通信大臣
ヨリ御述ニナタダ如ク、此本案ノ骨子ハ第三回ノ勞働會議
ニ於テ議決サレテ居ル所ノ條項ニ基イタモノデアアル、此勞働
會議ニ決メラレタ所ノ條約案ガ、各國ニ於テ既ニ批准サレ
テ居リマスカ、如何デゴザイマスカ、私一向知リマセヌ日本
ニ於キマシテモ是ハ既ニ御批准ニナラテ居リマスカ、ドウデゴザ
イマスカ、私ハ昨年餘所ニ參テ居リマシタノデ一向知リマセ
ヌデ、ソレヲ御伺ヒシタイ、ソレト申シマスノハ先般來日支郵
便約定ノ事ニ付キマシテモ色々議論ガアリマス如ク、若シ只
今茲ニ法律ヲ拵ヘテ其條約案ノ骨子ヲ實行スルコトニナリ
マストキニ於テハ、他日約定案ヲ御批准ヲ願ヒ奉ルト云フト
ナタタ時ニ於テハ隨分既ニ實行サレテ居ル事ニ付テハ、何ト
モ言フコトガ出來ナト云フ事ニナリハシナイカ、斯ウ云フ事
ヲ私ハ心配スル、ソレニ付テハ政府ハドウ云フ御考ニナラテ居
リマスカ承リタイ、ソレカラ次ニ此人道問題ノ上カラ致シマ
シテ幼年ノ勞働者ヲ保護スルト申シマスコトハ、洵ニ宜シイ
コトデゴザイマスケレドモ、陸上ノ勞働者ト違ヒマシテ、海上
ノ勞働者ニ付キマシテハ、少シク趣ガ異ルコトガアリハシナイ
カト思フ、何トナレバ我が日本ノ如キ海國ニ於テハ、一般ノ
人ニテ致シマシテ、子供ノ時分カラ陸ヲ行クガ如ク、船ニ在
ルコト家ニ在ルガ如キ思想ヲ養成セシケレバナラヌ、隨テ子
供ノ時分カラ十分熟練サセテ海事ニ慣レサセナケレバナラ
ヌ、サウ云フ點カラ考ヘマス、矢張若し時分カラ船ニ乗ルト

云フコトが宜カラウト思フノデアリマス、ソレニ付キマシテ色ノ面倒ナ條件ヲ拵ヘマス、却テ其思想ヲ害スルト——阻止スルト云フヤウナ虞ガアリハセヌカ、斯ウ云フコトヲ考ヘルソレニ付テ政府ハドウ云フヤウナ御考ニナシテ居ルカ、是ハドウモ少シ陸上ノ労働者或ハ其海ノ無イ國トノ事情デ餘程違フト思フ、此處ニ於テノ御考ハドウデアルカ、ソレカラ次ニハ船員法トノ關係ガドウデアルカ、我國ニ於テハ三十二年ノ法律第四十七號ヲ以テ船員法ガ制定サレテ居ル、其船員法ノ第四條ニ斯ウ云フ條項ガアル「未成年者カ船員ト爲ルニハ其法定代理人ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス」未成年者カ船員手帖ノ交付ヲ申請スルニハ前條第二項ニ掲ケタル事項ノ外前項ノ許可ヲ得タル旨ヲ證スルコトヲ要ス前項第二項ト申スノハ船員手帖ノ交付ヲ申請致スニ付キマシテハ、氏名トカ、本籍身分トカ、出生ノ年月ヲ書クト、斯ウ云フコトニナシテ居ル、其他ニ此代理人ノ許可ヲ得タルコトヲ書ケト、斯ウ云フ條項ト思フ、ソレカラ又第五條ニ於キマシテハ「船員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者ハ雇傭契約ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス」トアル、我が船員法ニ於キマシテハ、即チ未成年者ニ船員トナルコトヲ許シテ居ル——認メテ居ル、只今ノ法律ノ趣意トハ少シソレガ矛盾シテ居ル、是ハ私共考ヘマスルト、此只今原案ニ出テ居ルガ如キ法律ヲ實行スルニ付テハ、此船員法ヲ改正スルモノガ當然デナル、此條ノミナラズ此船員法ノ中ニハ色々ノ手續ガゴザイマシテ、或ハ傭人ヲ傭入レル等ノ色々ノ手續ガアリマシテ、ソレトノ規定ガアル故ニ、此改正ヲスルニハドウシテモ船員法ヲ改正センケレバナラス、ソレガ當然デアルト思フ、然ルニ其方法ヲ御執リニナラズシテ、之ヲ單行法トシテ御出シニナルト云フノハ、ドウ云フ御考デアアルカ、船員法ト接觸スル點ハドウ云フ事ニナルノデアアルカ、無論後ノ法律ヲ以テ致シマスレバ、先ノ法律ガ消滅スルコトニナリマセウカ、色々ノ手續等ガゴザイマスカラ、此點ハドウモ行ケマスミト思フ、ソレニ付テ政府ノ御考ハドウデアルカ、ソレカラ此漁業船ノ條約ニ依リマスルト除外シテ居ル、漁業船ト言ヒマシテモ遠洋航路漁業船ニナリマスレバ、日本ニ於テモ獎勵法ガゴザイマシテ、隨分大キナ船ガアル、其船ニ乗テ居ル所ノ人間ハ通常ノ商船ニ乗テ居ル所ノ人間ト餘リ違ヒマセヌ、殆ド變ラナイ之ヲ除外サレタ點ト申サレマス所ノ精神ガ、ドウ云フ都合デアリマスカ、就キマシテ御尋致シマスガ、漁船法ト云フモノハ、ドウシテモ拵ヘナケレバナラス、所ガ其漁船法ノ制定ニ付キマシ

テハ、政府ニ於テハ或ハ農商務省ノ所管デアルトカ、逓信省ノ所管デアルトカ申シテ、所管爭フ致シマシテ、未ダ之ニ手ヲ著ケルコトガ出來ナイト云フコトヲ今日ノ新聞ニモ現ニ書イタル、餘程政府ノ不統一ヲ攻擊シテ居ルヤウナコトニナシテ居ルガ、是ハドウ云フコトニ爲サル御考デアアルカ、是ハ最も必要ナ事デアデ、此案ニハ最も關係ヲ持テ居ルト思フ、ソレカラ次ニ御尋致シタイノハ、此船員ノ保健、是ハドウスル御考デアアルカ、昨年デゴザイマシタカ一昨年デゴザイマシタカ、政府ハ既ニ其案ガ出來テ居リマシテ、昨年ノ議會ニモ出スヤウナ御話デアタ、然ルニ今日ニ至ルマデ其案ガ出テ來ナイ、是モ社會局カ何處カノ管轄ニ移サレテ、色々政府ノ統一ヲ缺イテ居デ、出スコトガ出來ナイト云フコトヲ承テ居リマスガ是ハドウ云フ考デアアルカ、本案ニ付キマシテハ最も關係ヲ持テ居ルヤウニ思ヒマス、此數箇條ニ付テ、ドウソ大臣カラ明ナル御答辯ヲ承リタイノデアリマス

○副議長(松田源治君) 國務大臣前田利定君

○國務大臣(子爵前田利定君) 正木君ノ御質問ニ御答致シマス、本法律案ノ成立後ノ執行ノ時期ニ付テノ御質問ガ第一點デアタト思ヒマス、此執行ノ時期ニ付キマシテハ未ダ確定シテ居リマセヌ、ト申シマスモノハ正木君モ御達ノ通りニ、是ハマダ條約ノ御批准ヲ經テ居リマセヌ、現下樞密院ノ方ニ繫屬中ニナシテ居ルノデアリマス、故ニ本法律案ガ成立ノ後、御批准ガ済ミマシテカラ執行スルコトニナルデアラウト信ジテ居リマス、而シテ御批准關係ノ事ニ付キマシテハ、是ハ外務大臣ヨリ御必要ガアレバ御答申スノガ適當デアラウカト考ヘテ居リマス、外國ガ如何ニシテ居ルカト云フコトニ付キマシテハ、私ノ知り得ル所ニ依レバ、海運ノ先進國トモ申スベキ英吉利ハ、既ニ批准ガ終了シテ居ルコト、承知シテ居リマス、其他ニ付キマシテハ十分ニ承知シテ居リマセヌ、第二點ニ於キマシテハ、此年齡制限ニ付テ熟練ナル者ヲ失ヒハシナイカト云フ御尋デアタト思ヒマス(正木照藏君「違ヒマス私ノ申シタノハ海事思想ノ發達ヲ阻止スルコトニナリハセヌカ、斯ウ云フノデアリマス」ト呼フ)御尋ノ點ハ一應御尤デアリマスルケレドモ、本案提出ノ理由ト致シマシテハ、先刻申述ベマシタ通りニ、専ラ年少者ノ身體ノ保健ノ上ヨリ、又家庭ヲ遠ク父母ノ手許ヲ離レテ海洋ノ上デ勞務ニ服スル者デアリマスルカラシテ、其訓育ノ上ニ若眼ヲ致シマシテ、専ラ立法致シタ次第デアリマス、又海事思想ニ付キマ

シテモ、是モ左マデ支障ノアルモノトモ當局ハ思ウテ居ラヌ次第デアリマス、ソレカラ第三點ニ於キマシテハ、船員法ヲ改正ヲシナケレバナラスデヤナイカ、船員法ト接觸シテ居ル所ガアルヤウニ思フガ、何故ニ斯様ナ單行法ヲ出シタカ、斯様ナ御尋ノヤウニ伺取レタノデアリマス、此法案ハ今日ノ日程ノ第六ニゴザイマスル工業労働者ノ年齡制限ノ法案ト趣旨ハ同ジデアリマシテ、即チ所謂労働立法ノ一トシテ提案ヲ致シタノデアリマス、船員法ノ適用ノ範圍ト多少趣ヲ異ニシテ居ルト思フノデアリマス、船員法ハ既ニ傭入レマシタ所ノ船員ヲ公認スルト云フコトガ主眼トナシテ居リマス、此法案ハ傭入レル關係——雇傭關係ヲ定メルモノデアリマス、即チ傭入ノ基礎ヲ定メル立法デアリマスルカラ、自ラ適用ノ範圍モ異ルト考ヘテ居リマス、且又工業労働者ノ方ノ年齡制限ノ法案ト照應致シマスル爲ニ、又調査ヲ致シマスルニ付キマシテモ、照應シテ調査スル要モアリマスカラ、別個ノ單行法ト致シタ次第デアリマス、此法案ガ成立後ニ於キマシテ接觸スル點ガアリマシタナラバ、ソレハ審議ノ上船員法ヲ改正スルコトモアリマセウ、併ナガラサシタル差支ハ無イコト、考ヘテ居ル次第デアリマス、ソレカラ此法律案ニ於キマシテハ、漁船二十噸以下ノ船ハ除外シテアルノデアリマス、即チ此法案ノ適用スル範圍ハ、海洋ヲ航行スル船ニ付テノ労働者ノ年齡ノ制限規定シ、又體格検査ヲ強要スルノデアリマス、沿海ヲ航行シ、或ハ岸近ク出マス小サナ船ニ付キマシテハ、此適用ノ範圍外ニシテアル次第デアリマス、次ニ此漁船法ニ對シテ農商務、逓信兩省間ノ關係ニ付テノ御尋デアリマシタガ、其點ハマダ政府當局間ニ於テ協議中デゴザイマス只今之ヲ言明致シマス譯ニハ參リマセヌノデアリマス、大體御答ヲ致シタ積リデアリマス(拍手)

○正木照藏君 マダ落テテ居リマス、海員保健ニ關スル御答ガ落テテ居リマス、又船員法トハ接觸シナイト云フ大臣ノ御答辯デアリマスルケレドモ、只今讀シテ通リドウモ接觸シテ居ル、我が船員法ハ無制限ニ船員トナルコトヲ許シテ居ル、殆ド無條件デ許シテ居ル、只今ノ原案デハ之ヲ許サヌ、ソレデモ矢張接觸セヌト云フ御考デアリマスカ、念ノ爲ニ御尋ヲ致マスガ、之ガ爲ニ船員法ヲ改正スルト云フ意思ヲ御持ニナシテ居ラヌノカドウデゴザイマスカ、ソレダケ短簡ニ承リタ

○副議長(松田源治君) 前田國務大臣

〔國務大臣子爵前田利定君登壇〕

○國務大臣(子爵前田利定君) 御答ヲ致シマス、海員ノ保險ニ付キマシテハ、一般労働保險ト關聯致シマス事デアリマス、ソレ等ヲ見合ヒ致シマシテ攻究スル要ガアリマス、只今御研究ヲ願フ程度ニ達シテ居ラヌ次第デアリマス、次ニ船員法ト抵觸スル所ガアリハセヌカト云フ御尋デアリマスガ、此單行法ガ成立致シマスレバ、年齡制限ノ點ニ付キマシテハ、新法ヲ以テ舊法ヲ變改出來ルモノト斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、而シテ一般ノ船員、海員ニ關スル法規全般ニ涉リマシテハ、現況ニ鑑ミマシテ、其必受ヲ認メマスレバ之ヲ改正スルニ吝ナラヌデアリマス、而シテ又實際ニ於キマシテモ、調査研究ヲ致シツ、アル次第デアリマス

○副議長(松田源治君) 日程第十三、右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第十三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○岩崎勲君 本案ハ安達謙藏君外六名提出職業紹介法中改正法律案外六件ノ委員ニ、併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔賛成〕賛成ト呼フ者アリ

○副議長(松田源治君) 岩崎君ノ動議ニハ異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決定致シマス

○岩崎勲君 殘餘ノ日程ハ之ヲ延期シ、明日特ニ本會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

〔賛成〕賛成ト呼フ者アリ

○副議長(松田源治君) 岩崎君ノ動議ニハ異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決定致シマス、御諮リ致シマス、最早會期三分ノ二ヲ經過シテ居リマスカラ、本會議ハ火、木、土ノ外隨時開會スルコト、隨テ法律案ハ定期ノ時日ヲ要セス上程スルコト、委員會開會ノ許可ハ、議長ニ於テ取計ヒ、一々御諮リ致シマセヌ、右ハ異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(松田源治君) 異議ガナケレバ其通り決シマス、モウ一ツ諮問事項ガアリマス、第一部選出決算委員青柳郁次郎君、第二部選出決算委員大矢馬太郎君、第六部選出決算委員門田新松君、第七部選出決算委員宮崎友太郎君、右常任委員辭任ノ申出ガアリマス、許可スルニ異

議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(松田源治君) 異議ナイト認メマス、其部ノ諸君ハ速ニ補選選舉ヲ行ヒ、御屆ケアランコトヲ望ミマス、明日ノ日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ散會
午後五時三十一分散會

衆議院議事速記録第二十一號中正誤

頁	段	行	誤	正
四五七	下	一二	何カ行動ヲセラ	何等カノ行動ニ
四五八	上	三六	靜謐	出デントセラレ
同	中	一一	寧カ	靜謐
同	同	一二	基礎	事カ
				起訴

